



# 秋田大学 概要

令和5年度

# 要

2023

A K I T A U N I V E R S I T Y



# 秋田大学 概要

令和5年度

## 目 CONTENTS 次

- 01 学長あいさつ
- 03 基本理念、第4期中期目標・中期計画

### 教育・研究

- 06 卓越した教育と研究
- 09 地方創生・産学連携
- 11 国際交流

### 学部・大学院

- 14 国際資源学部
- 15 教育文化学部
- 16 医学部
- 17 理工学部
- 18 大学院

### 大学施設

- 20 附属図書館
- 21 医学部附属病院
- 23 国際資源学研究科附属鉱業博物館
- 24 附属学校園及び教育研究施設等
- 25 学内共同教育研究施設
- 27 センター／技術組織
- 28 福利厚生施設等／体育施設
- 29 横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校／  
インフォメーションセンター

### 資料編

- 31 沿革
- 34 歴代学長
- 35 運営組織
- 36 教育研究組織
- 37 事務組織
- 38 役職員
- 39 学生の定員・現員
- 40 入学志願者・入学状況／出身高校所在地別在学状況
- 41 卒業生・修了者数／学位授与数
- 42 卒業生等就職状況／令和3年度学生表彰(学業奨励金)受賞者
- 43 令和4年度学生表彰等受賞者
- 44 外国人留学生数／外国人研究員等
- 45 国際交流協定校
- 46 公開講座(令和4年度)
- 47 国内機関との連携・協力協定
- 49 役員数／教職員数
- 50 令和5年度予算／外部資金受入状況／  
令和4年度科学研究費助成事業採択状況
- 51 土地・建物
- 52 各連絡先・所在地一覧
- 53 手形地区施設配置図
- 54 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
- 55 アクセス



## 学長あいさつ

Message from the President

秋田大学はこれまで (1) 世界・地域を見据えたりーダーを育む (2) 世界・地域を視野に未来を創造する (3) 地域と共生し豊かな社会を創る (4) 地域に根ざし世界を目指す、というビジョンに沿って歩んでまいりましたが、その基礎となるものは世界と地域に貢献する最先端の研究、およびその目的にアプローチする研究が可能な人材の育成であります。社会から求められている大学の使命を果たすために、秋田大学では最先端の教育研究を強く意識した体制の地盤を整えており、世界を視野に入れた4つの学部を構えております。そこには、私たちが育んできた「歴史」と「誇り」があります。

教育文化学部。ここには、小中学生の学力日本一という秋田の教育の支柱となる教員を養成してきたという実績があります。学校教育課程においては、きめ細やかな教育プログラムに加え、伝統に育まれた教員養成を展開しています。教員は次世代を担う皆さんを良き「後継者」として育てて世に送り出し、時代を繋いでおります。地域文化学科では、何事にも対応できるための「教養」を身につけ、柔軟な思考を育むことを通じて、不確実性ともいえる時代に臨む皆さんが、グローバルな見地からローカルな課題を解決できる能力を磨くことができるよう支援しております。

国際資源学部。私たちが暮らす秋田は、国内では有数の資源を誇る地でありました。そして、そのフィールドは今、世界へとつながっております。国際資源という学部名に込められた思いは、ここにあります。鉱山専門学校に始まり、鉱山学部、工学資源学部で発展させてきた、世界に誇れる研究成果を蓄積し、日本の大学の中で唯一、資源学の総合教育研究体制を敷いています。また、海外において分校や研究室を展開し、3年生になると、全員が4、5人のグループに分かれ、海外資源フィールドワークに参加します。他大学に進学した高校の同級生が、生涯行くことはないであろう地にも赴きます。資源学の現場。日本の最前線を世界で知る機会を通じて、皆さんは学問が生きていることを実感できるはずです。

理工学部は、資源系の学部であった工学資源学部から理学系の要素を取り入れた学部として発足しました。誇るべき研究成果が続々と秋田大学の研究室から発信されております。例えば、メタルナノコイルからの複合材成形。この研究は複合材の軽量化・低コスト化を目指すものです。次世代航空機の機体の材質への応用が期待され、世界が注視しております。さらに、IoTやAI、ロボットなどの第4次産業革命の中心となる技術を視野に入れた理工学教育の改革とその分野をリードできる研究体制を構築しているところであります。

医学部においては、世界に発信できる教育研究の成果と地域医療への貢献が挙げられます。特に、地域医療への貢献としては、これまでも秋田県の医療の最後の砦としての役割を十分果たしてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症への対応については、秋田県のleading instituteとして、感染拡大の抑制に大きな役割を担ったと自負しているところであります。秋田大学の医師国家試験の合格率は例年、全国の医学部でも上位にランクされております。きめ細やかな教育の証左といえましょう。保健学科においても、人を支える挑戦を続けており、看護師や保健師、助産師のほか、理学療法士、作業療法士のすべての国家試験で高レベルの合格率を維持しております。

また、地域に貢献する活動にも力を注いでいます。秋田県の地域活性化へのさらなる寄与を目指す地方創生センターは、地域協働と、地域産業研究の2部門から成ります。地域協働部門では県内3か所に設置した分校を拠点に、地域の人たちと秋田大学の学生、教職員が一体となり、秋田の良さを再認識することを目指した活動を行っております。また、将来の夢の実現の一步とするための教師ミニミニ体験と称した、教員志望の啓発活動等、故郷の誇りを広げていく試みを続けております。地域産業研究部門では、秋田県の重要政策にリンクした研究事業を展開。県内産業の育成により、地域課題の解決にも大きく貢献できることと考えております。また、地域防災減災総合研究センターでは、近年増加傾向にある自然災害と複合災害に対し、秋田県の实情に合った防災対策に係る調査・研究を分野横断的に行うとともに、その研究成果を地域に還元し普及啓発を図ることにより、地域の防災力向上に寄与しております。さらに、グリーン社会の実現に寄与していくための研究や人材育成についても大学全体で取り組んでおります。内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業に採択され、新世代モーターによる航空機の電動化システム開発などの体制を整備し、研究開発と人材育成を推進するため、秋田県や秋田県立大学と共同で秋田大学電動化システム共同研究センターを設置した

ところであります。その他、秋田県が注力している洋上風力発電や余剰電力の利活用など再生可能エネルギーに関する領域にも重点的に取り組んでいく所存であります。

さらに、医理工連携をより効果的かつ力強く推進するため、医理工連携夢を語る会をリニューアルし、医療・介護機器や医薬品の開発等に加え、健康食品開発にも目を向け、産業の創生や振興に向けた取り組みを進めているところです。また、秋田県は少子高齢化の最先端県であります。このような現象により引き起こされる合併症の予防・治療は解決すべき喫緊の課題であり、秋田大学の貢献が大きく期待されているところであります。高齢者医療に特化した研究拠点として、平成29年度に秋田県からの補助を受け、高齢者医療先端研究センターを設置し、高齢者医療の先端的な研究や地域社会学の知見を踏まえた学際的な研究を推進しているほか、昨今のコロナ禍における様々な影響による心身の健康への関心が一層高まるなか、産学官が連携した自殺予防活動を強化するため、秋田県からの補助を受け、自殺予防総合研究センターを設置し、全学体制で幅広く自殺予防研究に取り組んでいるほか、令和5年3月には、感染制御、感染分子疫学解析、予防戦略と対策を県内関係機関等と積極的に共有・還元しながら高レベル感染症対応医療人材を育成するとともに、感染制御ネットワークの「司令塔」として県全体の感染症対応基盤を強化するため、秋田大学感染統括制御・疫学・分子病態研究センターを開設しました。感染症疫学研究とその社会的影響も含めた疫学研究、次世代シーケンサ等による病原体（ウイルス・細菌等）ゲノム解析や感染症疫学解析、ホストの細胞や細胞内情報伝達レベルの病態生理解析を進め、将来的な感染症の予防と新規制御戦略や新規治療薬開発につながる臨床と基礎研究を統合的に進め、感染症対応医療人材、感染症研究者の育成を目指しております。

このように秋田大学は、オール秋田の中心としての役割を果たすべく活動しております。昨年度までは新型コロナウイルスの影響により多くの活動が制限されてしまいましたが、徐々に社会貢献活動を再開してまいる所存であります。

シームレスで行われる学部教育から大学院教育。そして明確なミッションを掲げた各センター。これらが「優秀な卒業生を社会へ、そして優れた研究を社会に還元する」という秋田大学の使命に応える礎といえます。日経HR「価値ある大学2018年版 就職力ランキング」において、企業が選ぶ「採用を増やしたい大学ランキング」で堂々の全国第一位に選ばれました。卒業生の「行動力」「対人力」が高く評価されたものです。また、2021年10月発行の日経グローバル「大学の地域貢献度調査」において、総合ランキング全国4位となったほか、「THE日本大学ランキング2023」において、全国約800の国公私立大学中、61位という高位置を獲得できました。これらは、卒業生自身の努力の賜であることは言うまでもありませんが、それをバックアップする土壌が秋田大学にあることの証明であると、誇りに思っている次第です。

さらに最近では、ビッグデータの活用やIoTの普及、そして人工知能の発達によるSociety 5.0への対応が今の若者に要求されていることから、こういった新しい社会へ順応できる学生を輩出することが喫緊の課題と考え、令和元年の大学創立70周年を契機に、各学部において、この先10年の未来を見据えた改革を開始しました。その一つとして、新しい社会に貢献できる人材の育成を主眼とした新しい学部の設置並びに学部改組を積極的に進めることといたしました。新たな学部設置ではありますが、これからはいかなる領域においてもビッグデータの解析を基礎として、それらを駆使しながら世の中の問題を解決する手法を身につけた人材の輩出を目的とするものであります。

世界中で猛威を振るった新型コロナウイルスの感染拡大もようやく落ち着き、コロナ禍以前の社会経済活動に戻りつつありますが、ロシアによるウクライナ侵攻など国際社会における複合的な要因による資源や食料価格の高騰や円安進行など、なかなか先行きの見通せない時代であります。秋田大学では、こうした不確実な未来に向け、自信を持って羽ばたいていける学生の教育、今、これが最も求められているとの認識から、「学生第一」をスローガンに掲げ、全ての教職員が、学生さんにきめ細やかな教育環境を提供し、知的好奇心を育ていけるよう努力しているところであります。また、ウクライナ情勢に心を痛めながら注視している状況で、秋田大学も何か貢献ができないかという思いから、ウクライナの学生さんや研究者の皆さんにできるだけ教育研究の場を提供するため、海外の学生さんたちにも「学生第一」のスローガンを適用し、人材育成を行っていくことを決定のうえ受け入れを行い、令和5年4月現在9名のウクライナの学生さんが秋田大学で学んでおります。

先に、秋田大学のこれまでの伝統に起因した各学部の特色や大学改革等について述べましたが、このような危機に際し、我々は、新型コロナウイルスの収束やウクライナ問題終結後の世界、社会の将来をいち早く展望し、新しい世界、社会に順応できるように舵を取っていく所存であります。

最後に、秋田大学を「母校」とする我々は皆、優れた学生諸君を社会に輩出すること、そしてこの地（秋田）が輝きを増すことを期待しております。

国立大学法人秋田大学長 山本 文雄

# 基本理念

1. 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

(令和4年4月1日～令和10年3月31日)

## 第4期中期目標・中期計画

Mid-term Objectives and Plan

### 国立大学法人秋田大学の中期目標 (前文)大学の基本的な目標

秋田大学は、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げ、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、その使命である教育と研究を推進する。

この見地から本学は、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、優れた人材を育成するため、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進する。

一方、国立大学は、第4期中期目標期間において、地域から地球規模の諸課題に対処するためグローバル化やDX(Digital Transformation、デジタル技術による変革)と、それらを基礎とした産業・社会構造の変革等に貢献していく必要がある。そこで、本学を構成する全ての学部・研究科等は、固有のミッションに基づく専門領域にICT(Information and Communication Technology、情報通信技術)の要

素を取り入れ、諸学諸組織との融合を通じて、地域社会の持続的な発展を担う専門的職業人と国際社会で活躍する高度専門職業人及び学術研究者を育成する。

こうした基本認識に立って、本学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学修者中心の大学たることを目指す。

以上のような理念に基づき、活動の基本的な目標を以下に定める。

1. 教育においては、質の国際通用性を高め、DX推進に必要な素養を身に付け、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成する。
2. 研究においては、ICTを進化させて地域から地球規模に至る社会課題の解決に挑み、DXを推進するイノベーションを創出し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。



秋田大学中央図書館  
Akita University Library

## 中期目標

3. 社会連携においては、教育研究成果を地域社会に還元し、地域と協働した地域振興策の取り組みを推進するとともに、ICTを活用した医療体系の充実を図り、地域医療の格差をなくすことに貢献する。
4. 国際化においては、資源産出国を中心とした諸外国の留学生・研究者との学術交流を推進するとともに、情報工学を活用したスマート・マイニング(情報工学を積極的に取り入れた“これから”の資源情報学)を実践するため、学生や教職員の海外留学・派遣を促進する。
5. 大学経営においては、学長主導の下、学生及び教職員一人ひとりの活力を相乗的に高めた組織文化を浸透させ、透明性を確保した健全で効率的な大学経営を目指すとともに、学生及び教職員がSociety 5.0を構築するメンバーとして活躍できるよう環境を整備する。

- I 教育研究の質の向上
- II 業務運営の改善及び効率化
- III 財務内容の改善
- IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供
- V その他業務運営

に関する目標を達成するためにとるべき措置として、中期計画を設定しています。

本学の中期目標・中期計画の全文は

〈ホームページ〉 [https://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in\\_target.html](https://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_target.html) からご覧いただけます。

# 教

# 育

# 研

# 究

卓越した教育と研究

- 小型軽量電動化システムの研究開発と応用展開
- 文部科学省 科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業
- 大学の世界展開力強化事業～アフリカ諸国との大学間交流形成支援～
- 研究拠点形成事業
- 国際科学技術共同研究推進事業

地方創生・産学連携

国際交流



# 卓越した教育と研究

## 小型軽量電動化システムの研究開発と応用展開

(実施期間：令和2年度～令和5年度)

現在製造されている航空機は電気、空圧、油圧によって制御されていますが、それぞれの仕組みは複雑で整備負担が大きく、電気に統一する動きが進んでいます。さらに二酸化炭素排出量の低減のため、推進機構の電動化も検討されます。秋田大学ではこうした課題に着目し、秋田大学・秋田県立大学の研究者有志によるアキタ・リサーチ・イニシアチブの研究活動を推進してきました。両大学が県内企業等と共同して進めてきた、航空機をはじめ、自動車などにも応用できる「小型軽量電動化システムの研究開発による産業創生」事業が、令和元年度内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」の交付対象事業に採択され、令和3年4月には、本学に秋田県立大学と共同で運営する電動化システム共同研究センターを設置しました。同センターが中心となって研究開発を推進し、地域人材育成と産業振興に貢献します。

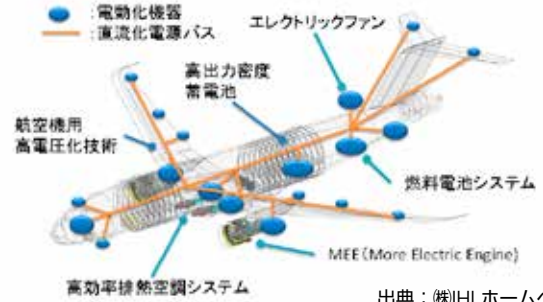
令和4年4月、主要な研究施設として新世代モーター特性評価ラボがオープンしました。本ラボは、モーターの性能評価試験、モーターで駆動する装置の耐久試験(耐環境試験)、グリッド(送電線)を利用したシステム試験等に利用可能で、県内外の企業様等にもご活用いただけます。

令和5年3月には秋田県立大学・株式会社IHI・秋田県内地域企業等と共同で、出力250kWの航空機推進系大出力電動モーター(ハルバツハモーター)の試作機の開発に成功しました。



国内最大級のモーター特性試験装置  
※新世代モーター特性評価ラボに整備

### 【2030年代の電動化システム構想の例】



出典：(株)IHI ホームページ



### 【航空機実寸大グリッド試験設備】



出典：新世代モーター特性評価ラボホームページ

<https://www.akita-u.ac.jp/dendouka/motorlab/ja/about/>



グリッドを使用したシステム試験設備(通称：カッパーフェザ)の全景  
※新世代モーター特性評価ラボに整備

本事業については、以下のHP及びYouTubeチャンネルを参照してください。

電動化システム共同  
研究センター



日本語版



英語版



YouTubeチャンネル

新世代モーター特性  
評価ラボ



日本語版



英語版

# 卓越した教育と研究

## 文部科学省 科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業

### 「SDGs達成に貢献する文理融合型高度資源系人材育成」

(事業期間：令和2年度～令和9年度)

秋田大学フェローシップは、SDGs達成やカーボンニュートラルに貢献する優秀な資源人材を育成するため、将来の科学技術、イノベーションの創出を担う博士後期課程学生を支援するプログラムです。

本プログラムは文部科学省による「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」に採択されたプログラムです。

#### 1. 研究力向上に向けた取組

- i) 情報交流ラウンジの開設と研究活動のデータベース化による博士学生の交流と見える化の推進
- ii) 研究力向上のための研究発表会の定期的な開催
- iii) 企業との共同研究を通じた研究インターシッ プの実施

#### 2. 博士後期課程修了後のキャリアパスに向けた取組

- i) 博士後期課程学生の研究活動と企業ニーズのデータベース化によるマッチング

#### 3. 学生への経済的支援

##### i) 支援額：

研究専念支援金（生活費相当額）15万円／月  
研究費 30万円／年

##### ii) 支援予定者数 8人／博士後期課程1学年あたり



本事業については、以下のHPを参照してください



日本語版



英語版

## 大学の世界展開力強化事業～アフリカ諸国との大学間交流形成支援～

### 「南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成」

(実施期間：令和2年度～令和6年度)

令和2年度に文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に、本学の「南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成」事業が採択されました。本事業は、九州大学（連携校）、北海道大学（協力校）との連携の下、Society5.0のコア技術でもあるAI、IoT、ビッグデータ等の情報工学を積極的に取り入れた資源開発学「スマートマイニング」を実践できるグローバル人材を養成するための人材育成協働プログラムです。

具体的には、日本側の学生と、アフリカ側の連携校の学生が、学部段階から修士課程に至るまで、「バーチャルトラベリングクラス」「資源情報学の基礎」「日阿協働研修」「日阿協働チーム研究」などのカリキュラムを通して、スマートマイニングに関する実践的な知識・技能を習得します。

カリキュラムには南部アフリカと日本の間で渡航を含む交流が予定されており、資源採掘の現場を訪問する機会を提供します。新型コロナウイルスの世界的な蔓延を鑑み、対面による活動が制限される事態も想定の上、積極的にオンラインによる活動も盛り込んでいます。

**国内連携・協力機関：**秋田大学（代表校）、九州大学（連携校）、北海道大学（協力校）

**海外の連携機関：**

- ・ ヴイツウォーターズランド大学（南アフリカ）
- ・ ザンビア大学（ザンビア）
- ・ テテ工科大学（モザンビーク）
- ・ ボツワナ国際科学技術大学（ボツワナ）
- ・ ボツワナ大学（ボツワナ）



本事業については、以下のHPを参照してください



日本語版



英語版

## 研究拠点形成事業

### 「中央アジア経済移行国の持続的資源開発を目指した若手資源情報研究者育成拠点の構築」

(実施期間：令和3年度～令和5年度)

令和3年度に日本学術振興会（JSPS）の「研究拠点形成事業」（B.アジア・アフリカ学術基盤形成型）に、本学の「中央アジア経済移行国の持続的資源開発を目指した若手資源情報研究者育成拠点の構築」事業が採択されました。

本事業では、地下資源（特に鉱物資源）の埋蔵ポテンシャルが高く、新規資源開発地域としてフロンティアに位置づけられているにもかかわらず、資源開発の先進的な技術力・プランニング力を担う人材が不足している中央アジア5か国の代表的な大学等との相互交流を深め研究・教育拠点を構築することにより若手資源情報研究者を育成することを目的としています。

具体的には、日本と海外の拠点機関等が共同研究、セミナー・シンポジウムの開催、研究者交流等の活動を実施します。

日本側拠点機関：秋田大学

日本側協力機関：北海道大学、九州大学、筑波大学

海外側拠点機関及び協力機関：

- ・モンゴル科学技術大学（モンゴル）
- ・ナザルバエフ大学（カザフスタン）
- ・ナヴォイ鉱業大学、ウズベキスタン・日本青年技術革新センター（UJICY）（ウズベキスタン）
- ・タジキスタン科学アカデミー、タジキスタン鉱山・冶金大学（タジキスタン）
- ・アサナリフ地質・鉱業・天然資源開発大学、キルギス科学アカデミー（キルギス）



本事業については、以下のHPを参照してください



日本語版

## 国際科学技術共同研究推進事業

### 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）

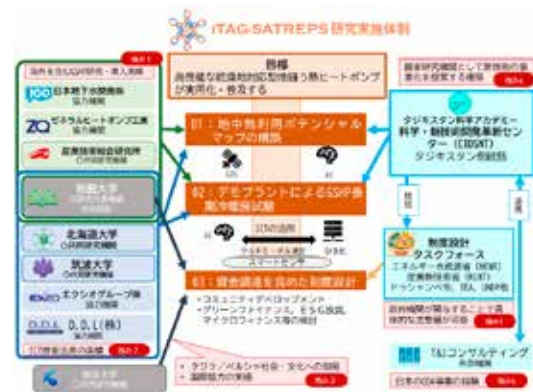
#### 「地中熱利用による脱炭素型熱エネルギー供給システムの構築」

(実施期間：令和3年度～令和8年度、令和3年度は暫定研究期間)

本研究は、寒暖の差が激しく石油・天然ガスにも恵まれないタジキスタンにおいて、その豊富な地下水資源に着目し、人工知能などICT技術を統合した「先進乾燥地帯対応型地中熱ヒートポンプシステム（タジキスタンモデル）」の構築と普及によって、エネルギー事情改善と雇用創出による地域安定化および温暖化対策への貢献を目指すものです。具体的には、以下の3つの研究題目を実施します。

- (1) フィールド調査に基づく地下水流動・熱輸送モデル、GISデータと人工知能を採用した地中熱・地下水熱利用ポテンシャルマップの構築
- (2) マルチモーダル計測と人工知能を用いたデモプラントによる長期冷暖房試験実施
- (3) 「タジキスタンモデル」の普及のための制度設計

(1)と(2)を通じて人工知能による最適地中熱冷暖房システムを構築し、(3)の制度設計に反映させます。また、各ステークホルダーと協働で地中熱システムの産業化と雇用創出、そのための資金調達スキームを含む制度案を作成し、その導入を目指します。



本事業については、以下のHPを参照してください



日本語版



英語版

# 地方創生・産学連携

秋田大学は、平成16年度の国立大学法人化を契機に、教育・研究・社会貢献を大学運営の重点事項として掲げ、公共的な知の拠点として大学開放事業を推進しています。

本学の社会貢献活動の根底には、学生のみならず生涯学習も教育の一環であり、社会の人々にも積極的に教育資源を提供していこうという思いが込められています。そのコンセプトを基に、様々な活動を展開しています。また、高校生やその保護者、あるいは小・中学生を対象とした企画も実施しています。

平成28年4月には地方創生に取り組む地（知）の拠点大学として、新たに「地方創生センター」を設置しました。当

センターは地域との協働による地域振興策の取組及び地域産業の成長に資する研究を推進し、地域を担う人材育成の推進と地域の産業振興、活性化に貢献します。

また、令和4年4月には、近年増加傾向にある自然災害と複合災害に対し、感染症蔓延下での対応を含めた対策の検討のために、「理工学研究科附属地域防災力研究センター」と「地方創生センター地域協働・防災部門」の地域防災事業を統合改組し、継続分野に加え医療系の分野も追加した全学組織として、「地域防災減災総合研究センター」を設置し、地域防災減災対策等に関する各種調査・研究・分析及び支援等にかかる活動を開始しています。

## 地域協働・社会貢献

### ■公開講座

生涯学習の一環として、市民・県民の皆様どなたにでも本学の良質な教育資源を提供するために、毎年多種多様なテーマで公開講座を開講しています。



### ■スポーツ少年向け障害予防教室の開催

超音波によるメディカル・チェックなどを通して故障の原因となり得る要素について知ってもらい、自身の体のケアについて意識するきっかけとすることを目的に開催しています。



県内のスポーツ少年団員・中学生及びその保護者・指導者を対象に、超音波検査による、骨や筋肉の状態、腕や足・体幹の柔軟性、フォームなどをチェックし、その状態に適したストレッチやフォーム指導を実施しています。

### ■メディカル・サイエンスカフェ

社会貢献事業の全学的な取り組みとして、本学の持つ学術的知見を分かりやすく県民へ提供するため、学部間連携により各学部から講師を招き、医学系研究科長がサイエンスカフェ・マスターとなって、幅広い視点から医学・健康に関する話題を提供しています。

### ■小・中学生等の大学見学

秋田大学を知ってもらい興味を持ってもらう機会として大学見学を承っています。



## 地域防災

### 1. 地域防災のあり方に関する調査・研究

センターに3部門「災害メカニズム部門」、「災害レジリエンス部門」、「ヒューマンサポート部門」が置かれ、地域防災減災対策等に関する各種調査・研究・分析及び支援等にかかる活動を行っています。

### 2. 防災について地域で活動できる人材の育成

地震災害が発生した場合に地域住民自らが減災活動を行えるように、自治体・町内会、教育機関等で防災教育を実施します。



### 3. 県及び市町村への防災施策に関する指導助言

秋田県の地震被害の想定並びに地震防災対策を推進するために、県内自治体が考える防災減災対策について、地域の特性を考慮しながら指導・助言を行います。

## 地域産業研究

### ■資源開発・環境リサイクル研究開発事業

天然の鉱物資源や石油、天然ガス等のエネルギー資源に関する開発と生産・利用にはじまり、資源精製や素材生産、レアメタル等のリサイクルから環境修復技術に至る高度で独創的な研究を推進し、国際的な視野に立った先進的教育研究拠点を構築します。



### ■新素材・機能性材料開発研究事業

新素材・機能性材料開発事業では秋田大学における基礎研究成果を基盤とした新素材や先端材料の開発に関連した研究を推進し、地域の高等研究機関としての機能を果たすことで、これら研究をとおして秋田県内企業、大学、公設試の連携による新産業や雇用の創出を目指します。



### ■小型軽量電動化システム研究開発事業

2050年のカーボンニュートラル達成のためのキーテクノロジーである、モビリティ（航空機、自動車などの輸送機械）の電動化研究を進めるため、内閣府「令和元年度地方大学・地域産業創生交付金」の交付対象事業「小型軽量電動化システムの研究開発による産業創生」と連携して研究開発を行い、地域の産業振興に貢献します。

### ■新エネルギー開発研究事業

秋田県は自然エネルギーに恵まれています。特に秋田県沿岸部は風力発電の好適地であり、大規模な洋上風力発電所が設置されていきます。本事業では、豊富に発生する再生可能エネルギーを地域で効果的に活用し、地域の発展に寄与できる技術の開発を行います。

### ■医理工連携産業研究開発事業

秋田県内を中心とした企業と共に、医療・福祉関連分野における少子高齢化に伴う新しい機器の開発と事業化を推進します。開発機器は医療機器だけではなく健康増進、長寿に関する一般ユーザーを対象としたものに広げ、産学官連携による医療機器産業の育成に努めます。



## 炭素繊維複合材 (CFRP: Carbon Fiber Reinforced Plastics) の新たな成形技術や輸送機産業軽量部品製造法の開発 (プロジェクトリーダー：村岡 幹夫 理工学研究科教授)

秋田県の地方創生事業として、経済産業省の認可を受け平成29年4月「秋田複合材新成形法技術研究組合」が設立され、秋田大学では地方創生センター内に研究開発拠点を置き、村岡幹夫理事長兼プロジェクトリーダーのもとで産学官連携による研究開発を実施しております。

三菱重工業との共同研究により、航空機機体主要構造物をターゲットとした磁場加熱による炭素繊維複合材の低コスト成形技術の開発をはじめ、EV化の潮流の中、トヨタ自動車や世界的編み機メーカーである島精機製作所との共同開発を通じて、現在、炭素繊維の編み物基材を活用した自動車内装部品へのCFRP工法実用化検証を進めているほか、炭素繊維シートと熱可塑性樹脂によるコンクリート構造物を補修する新工法を開発するなど、公共インフラ補修を目的とした土木分野への技術応用にも取り組んでおります。



小規模設備で航空機レベル品質のCFRTP成形に成功



溶射法を使用したコンクリート補修の試験施工

# 国際交流

## 世界に広がる 学術ネットワークと海外拠点

秋田大学では、海外の教育・研究機関との人的交流、研究交流を推進するため、世界各国の大学等と大学間協定を締結しています。2023年5月現在、大学間協定は35カ国・地域73大学、部局間協定は22カ国・地域38学部等となりました（詳細は、P45「国際交流協定校一覧」参照）。これらの協定校とは、協定に基づいて、学生交流、教職員・研究者交流、共同研究などの活動を行うなど、積極的に交流を進めています。今後も協定校との積極的な国際交流の拡大と協定校の新規開拓を推進していきます。

さらに、本学のグローバル教育・研究の海外拠点として、2023年5月現在、6カ国・8カ所に海外拠点を設置し、海外協定校との共同研究、研究者交流、教育活動の基盤として活用しています（詳細は、「秋田大学海外拠点一覧」を参照）。今後は、海外拠点数のさらなる増加とともに、海外拠点を基盤とした海外協定校との教育・研究交流の活発化に向けて取り組んでまいります。

### 〈秋田大学海外拠点一覧〉

2023年5月1日現在

国	拠点名	設置日
モンゴル	秋田大学モンゴル事務所	2012年10月8日
タイ	秋田大学・チュラロンコン大学共同研究室	2013年4月25日
	秋田大学バンコク事務所	2014年10月1日
インドネシア	国際資源学部・トリサクティ大学共同研究室	2015年4月28日
	秋田大学・バジャジャラン大学共同研究室	2019年4月1日
ボツワナ	秋田大学ボツワナ事務所	2017年6月28日
アラブ首長国連邦	秋田大学・UAE大学共同研究室	2019年4月1日
ウズベキスタン	秋田大学・ウズベキスタン日本青年技術革新センター地球資源研究サテライトラボ	2023年4月3日

第3期中期目標・中期計画の期間（2016年度～2021年度）には、大学間協定数や海外拠点数の着実な増加、年間の留学生の受入れ200名の達成などの成果が見られました。これらの成果を踏まえて、本学の国際化を一層推進するため、国際戦略及び第4期中期目標・中期計画において、新たな目標を設定しました。

## 国際戦略及び 第4期中期目標・中期計画

2021年5月、本学の国際戦略を改訂しました。改訂された国際戦略では、「国際性豊かな人材の育成」、「海外大学との連携促進」、「国際共同研究の推進」、「大学の国際化に対応した教職員の資質能力の育成」の4つの戦略及び具体的な達成目標を策定しました。

これを受けて、各学部・研究科において、各年度の

達成目標や具体的な行動指針を定めたアクションプランを作成し、国際戦略の実現に向けた取組を進めています。

また、2022年4月から開始された第4期中期目標において、「学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。」ことを目標に掲げました。

これを受けて、第4期中期計画において、単位互換、ダブル・ディグリー・プログラム、留学生の受入拡大、学生の語学力強化など各項目における具体的な評価指標を設定しました。

〈第4期中期計画における主な評価指標〉

- ・単位互換の実施：新規7校
- ・ダブル・ディグリー・プログラムの実施：新規2校
- ・大学間協定の締結：2021年度比で30%増
- ・海外拠点の設置・活用：新規4拠点
- ・留学生の受入れ：年間250名
- ・学生の語学力強化：e-ラーニング教材も活用した英語教育プログラムの改革
- ・海外留学を経験した学生の割合：20%
- ・海外資源フィールドワークの参加率：100%

2026年度まで、国際戦略及び中期目標・中期計画に基づいて、本学の国際化を積極的に推進してまいります。

## 資源開発の研究拠点から 外国人留学生への広報まで

国際資源学教育研究センター（ICREMER）は、国際的視野を持つ資源人材の養成と教育研究の拠点となることを目指し、本学に設立されました。ICREMERでは、資源保有国に対する出張講義・技術指導等の教育支援のほか、資源保有国協定校の大学院生を対象に行う短期研修「ショートステイプログラム」の開催、資源学に関する国際シンポジウムの開催、海外協定校や関係機関との共同研究の推進、共同研究者の本学への短期招へい等、様々な活動を行っています。

特に、ショートステイプログラムについては、プログラムを終えて帰国した学生が正規留学生や交換留学生として再び本学に戻ってくるケースが増えてきており、本学の海外広報としての役割も期待されています。

秋田大学は世界に開かれた大学として国際交流の拡大を図っています。これを実現するため、本学の国際化やグローバルに活躍する人材の育成を推進するための組織として、高等教育グローバルセンター（GHE）を設置しています。

GHEでは、学生の留学支援、留学に関する情報提供、交流イベントの開催、大学間協定の締結、学内の国際化の推進などの活動を行っています。



山本学長(中央)と留学生

## 外国人留学生に対する教育・生活支援の充実

留学生に対する教育・生活支援体制も充実しています。留学生に対して、留学生会館、国際交流会館という2つの宿舎を用意しています。民間アパートへの入居を希望する留学生に対しては、留学生の入居に際して必要とされる保証人を秋田大学が引き受けるとともに、留学生住宅総合補償加入料の一部補助を実施しています。また、経済的支援のため、フードバンク実施団体と連携した食料支援事業も行っています。秋田の文化に対する理解を深めるため、農家民泊、スキーツアーなど、地域に根ざしたイベントを企画・提供し実施しています。この他にも留学生と日本人学生との交流事業や、在学生在が留学生の生活や学習を支援する「チューター制度」を実施しています。また、秋田大学内に「多文化交流ラウンジ」が設置され、日本人学生と留学生との交流や、全学生、教職員が多言語を自律的に学べる場として活用されています。

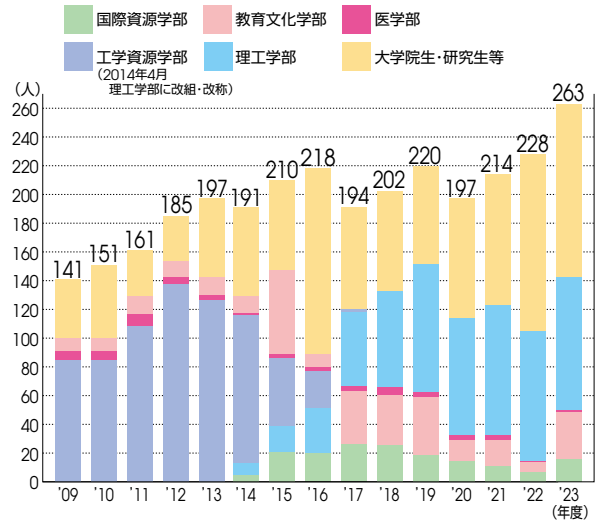
## 国際的視野を持った人材の育成

若手教育系職員を海外の大学等に派遣し、国際的な視野を持った人材の育成を目指すため、「秋田大学研究者海外派遣事業」を実施しています。本事業を開始した2008年度以降、毎年2~3名程度、計33名の研究者がこの事業に参加し、海外の大学で研究を行いました。

また、学生の留学制度として、海外の協定校へ交換留学する「秋田大学派遣交換留学」や、高等教育グローバルセンターや各学部が実施する「海外短期研修」があります。これらの留学制度で留学する際の経済的支援のため、「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」や「秋田大学学生海外短期研修支援事業」を実施しており、留学に係る旅費の一部を支給しています。

他にも、独立行政法人日本学生支援機構「海外留学

## 〈留学生数の推移〉



支援制度」により奨学金が支給される留学プログラムなどがあります。

新型コロナウイルス感染症による国の水際対策が緩和され、海外渡航が今後も活性化していくことが見込まれることから、国際的な視野を持った人材の育成に向け制度の充実を図っていきます。



カナダに留学した本学学生



ドイツに留学した本学学生(左から2人目)

秋田大学の国際交流に関する取組の詳細については、以下のHPを参照してください。



日本語版



英語版

# 学部

# 大

# 学

# 院

[学部]  
国際資源学部  
Faculty of International Resource Sciences

教育文化学部  
Faculty of Education and Human Studies

医学部  
Faculty of Medicine

理工学部  
Faculty of Engineering Science

[大学院]  
国際資源学研究科  
Graduate School of International Resource Sciences

教育学研究科  
Graduate School of Education

医学系研究科  
Graduate School of Medicine

理工学研究科  
Graduate School of Engineering Science

先進ヘルスケア工学院  
Graduate School of Advanced Healthcare Engineering



# 国際資源学部

国際資源学部は、地球規模の資源問題解決に向けて、資源生成メカニズムの解明から資源の探査、開発・生産までを対象とした理工系分野と、資源国の政策・文化や資源経済などを対象とした人文社会系分野からなり、網羅的に資源を学ぶことができる我が国唯一の「資源学」を対象とした学部です。世界の第一線で活躍する教授陣を結集し、世界をフィールドとして資源学の最先端を学びます。国内外の大学や企業、研究機関との強力な連携体制のもと、国際舞台で活躍できる資源人材を養成します。

当学部で実施する英語による専門科目の講義や学生全員が参加する約4週間の海外実習(海外資源フィールドワーク)などの実践的な教育によって、学生の皆さんは高い国際性と専門性を身につけることができます。2014年の学部創設から現在まで多くの卒業生が国際的な資源ビジネスに取り組む企業に就職しています。資源のスペシャリストになり、世界の持続可能な開発への貢献を目指す皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

## 学部の構成(1学科) 【国際資源学科】

地球規模の資源問題解決に向けて、国際的な視野をもち、実践的能力を育みます。

## ●資源政策コース(文系)

資源を取り巻く国際情勢や政策・法制度を理解し、関連する政治学や経済学、資源国とのビジネスや国際協力、その背景となる資源地域の文化や歴史、宗教について学びます。

## ●資源地球科学コース(理系)

世界の資源の成因や特徴を理解し、資源探査や評価に貢献するために、資源を生み出す地球規模の自然現象、地球史、地球を構成する物質やその分布と探査について学びます。

## ●資源開発環境コース(理系)

限りある地球資源を持続的かつ有効に活用するため、地球環境に調和した資源開発・生産技術、リサイクル・製錬技術、環境保全などに関わる専門分野を学びます。



## カリキュラムの特色

1 年次	I-EAP(集中大学英語) グローバル人材の基礎となる総合的な英語を身につける	学部共通科目 ● 地球科学概論 ● 国際関係学概論 ● 資源開発環境学概論	資源政策コース	資源地球科学コース	資源開発環境コース	基礎 資源を学ぶ上で基礎となる知識を習得する。	専門科目は全て英語で授業 世界で活躍するために、英語力は必須です。国際資源学部では、1・2年次に「I-EAP」と呼ぶ特別カリキュラムで集中的に英語を学びます。また、ディスカッション演習、ディベート演習によって、実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めています。こうした実践的な英語学習を経て、専門科目の講義は全て英語で行います。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身につけることができるカリキュラムを用意しています。			
			<b>教養教育科目</b> ○初年次ゼミ ○主観別科目 ・現代社会・人間と文化・科学の探求 ・生活と保健・地域志向・キャリア形成・技能の活用 ○国際言語科目 ○スポーツ文化科目	<b>基礎教育科目</b> ・国際資源外交史 ・異文化コミュニケーション ・資源開発と人権問題 ・ミクロ経済学 ・マクロ経済学 ・日本の国際協力 ・基礎統計学	・I-EAP Certificate ・基礎微分代数・多変数微分積分学 ・基礎微積分学 ・基礎物理学 ・基礎化学 ・基礎物理学実験 ・基礎化学実験 ・基礎情報学 ・情報処理の技法 ・基礎AI学 ・基礎データサイエンス学			発展 学部共通科目と各専攻の専門知識を統合し、総合的な専門知識を習得する。	文理融合カリキュラム 海外で資源の開発を行う上で、開発に必要な地球科学、資源工学といった理系の知識はもちろんのこと、その国の政治・経済状況、文化や制度を知っておくことは、極めて重要な意味を持っています。国際資源学部では、専門科目の一部はコースを横断して履修できるカリキュラムとなっており、文系理系の枠を越えて資源学を修める上で共通に求められる知識・技術を修得することができます。企業が海外での資源戦略を展開する上では、文系の知識と技術系の知識の両方が必要になり、文理融合の視点は欠かせません。	
			<b>資源学実習</b> 地質巡検の実施、鉱山・精錬所・リサイクル施設への訪問(全学生必修)							実践 海外における実践的な学びをより世界の資源業界を高める卒業課題研究を取り組むディベート演習を明確にする。
			<b>資源政策コース専門科目</b> ●資源政策論 ●国際法学 ●エネルギー・環境学 ●政策過程論 ●国際開発論 ●文化人類学 ●交渉学 ●水資源管理論 ●エネルギー地政学 ●資源地域研究 ●地質学 等 ●資源動向論 ●地球物理学 等 ●国際情勢分析論 ●資源と平和構築 ●鉱業法 ●資源契約論 ●資源経済学 ●エネルギーシステム政策 ●応用資源地域研究 ●国際協力特別講義 ●専門プレゼンテーション技法 ●資源循環学 ●リサイクルシステム学 等	<b>資源地球科学コース専門科目</b> ●地史学 ●地質図学 ●石油地質学 ●古生物学実験 ●鉱物学 ●金属鉱床学 ●鉱物学実験 ●岩石学 ●岩石学実験 ●国際法学 ●地球物理学 ●材料力学 等 ●古環境解析学 ●堆積学 ●石油鉱床学実験 ●X線結晶学 ●地史解析学実験 ●地熱工学 ●金属鉱床学実験 ●リモートセンシング地質学 ●岩石学実験 ●岩石鉱物鉱床学実験 ●専門プレゼンテーション技法 ●物理探査学 ●岩石力学 等	<b>資源開発環境コース専門科目</b> ●材料力学 ●流体力学 ●物理化学 ●分析化学 ●地球物理学 ●工業製図 ●石油開発工学 ●地球化学 ●石油生産工学 ●資源環境修復学 ●機器分析学 ●金属鉱床学 等 ●資源処理工学 ●岩石力学 ●工学基礎実験 ●測量学及び実習 ●物理探査学 ●素材開発工学 ●計算機プログラミング ●地熱工学 ●製錬工学 ●リサイクル・廃水処理工学 ●製錬プロセス工学 ●専門プレゼンテーション技法 ●資源経済学 等					
<b>海外資源フィールドワーク</b> (全学生必修)										
<b>卒業課題研究</b> ●研究プロポーザル 等 ●応用金属鉱床学 ●応用鉱物学 ●研究プロポーザル 等 ●資源開発環境文献講読 ●研究プロポーザル 等										

**I-EAP(集中大学英語)**  
「I-EAP」とは、Intensive-English for Academic Purposesの略。英語力を「読む(reading)」「聞く(listening)」「書く(writing)」「話す(speaking)」「プレゼンテーション(presentation)」の5つの技能に区分し、8週間一区切りで個別技能の教育を行う集中講座。授業は全て英語で行い、技能ごとの目的に合った教材を担当教員が選定し、少人数編成のクラスで基礎英語力を徹底的に鍛えます。

**ディスカッション演習  
ディベート演習  
専門プレゼンテーション技法**  
実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めていきます。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身につけます。

**国際資源クリエイティブ演習**  
全学生必修の海外資源フィールドワーク(鉱山・石油関連企業や商社・国際協力機関等での4週間程度の実習)の目的を理解し意義あるものにするため、事前・事後学習の場としての国際資源クリエイティブ演習を設けます。

**海外実習必修の教育制度**  
3年次の後半に、全ての学生が海外資源フィールドワークに参加します。国際資源学部では、国内の大学や企業はもちろん、海外の大学や企業からも協力を得て、学生全員が海外で4週間程度の資源学に関連するフィールドワークを実施できるネットワークを用意しています。これまでの実績としては、ヨーロッパや北米、南米、東南アジア、中央アジア、中東、アフリカなど、まさに世界中を対象としたプログラムを実行してきました。実際に操業している鉱山での研修や、海外の大学でのレクチャーの受講、研究施設や企業の資源ビジネスの現場を訪問することで、地球と資源、資源と人間との関係について実感をもって学ぶことができます。

# 教育文化学部

教育文化学部は、教員養成を担う学校教育課程と地域協働の核となる人材養成を担う地域文化学科の1課程1学科からなります。学校教育課程は、教育現場との密接な連携を図りつつ、実践力のある教員を養成、全国最高水準の秋田県教育の継承と発展・普及を目指します。地域文化学科では、社会科学・人文科学などの多様な学問分野の学習と、地域と連携した授業・フィールドワークなどの実習を通じて、地域の諸課題についてグローバルな視点とローカルな視点から実践的に学ぶことができます。様々な課題を抱える教育や地域に貢献し、持続可能な社会を作るためにみなさんの力が求められています。現場に根ざした実践的な学びは世界と未来につながり、みなさんの人生を豊かなものにしてくれるでしょう。

## ■学部の構成(1課程1学科) 【学校教育課程】

地域の教育の活性化に貢献する教員を養成します。

### ●教育実践コース

小学校教員の養成を主とし、中学校教員養成も含めて、小中連携にも対応できるようになるとともに、子どもの心身の成長発達について理解を深め、全国トップクラスの学力を支える高度な実践力を持った教員を養成します。

### ●英語教育コース

小中高の連携による英語教育を実践できるとともに、英語力のみならず言語学的知識と英語圏文化の素養を身につけた上で、異文化間コミュニケーション能力を持った教員を養成します。

### ●理数教育コース

理科または算数・数学の体系的な知識と指導法を身に付け、理科や算数・数学のおもしろさを子どもに伝えることができ、実感を伴った理解へと学習を進展させることができる教員を養成します。

### ●特別支援教育コース

特別支援学校及び小・中学校等で特別支援教育を担うとともに、インクルーシブな環境で、発達の特性や特別なニーズに対応した支援を実践できる教員を養成します。



教育実習の様子



### ●こども発達コース

幼稚園や保育所の教員・保育士及び小学校教員の養成を主とし、幼保小連携に対応できるスキルを身につけるとともに、人間の生涯にわたる発達過程や、幼児教育・保育と学校教育の全課程を見通しながら省察できる教員を養成します。

### 【地域文化学科】

地域社会や文化の活性化に貢献する人材を養成します。

### ●地域社会コース

法学、政治学、経済学、経営学、社会学、マーケティングなどの社会科学を軸にしながら、地理学、環境科学、食健康学、住環境学や情報科学も併せて学べます。さらに学内外での授業を通じて得た知識や技能を用いて、総合的かつ多角的に地域社会をとらえる能力の修得を目指します。

### ●国際文化コース

日本を含むアジアと欧米の言語・文化について、文学・歴史学・哲学・芸術学・言語学などの人文科学的な視座から学ぶことができます。海外研修と語学検定への支援や外国語修得プログラム(英・独・仏・露・中国・朝鮮語)も活用し、国際社会の多様なあり方を理解した上で、その知見を地域文化の活性化につなげられる能力の修得を目指します。

### ●心理実践コース

心理学に必要な理論や実践、統計法、面接法などについて、基礎から応用までを体系的に学べます。さらに学んだ知識や技能を用いて、地域の問題や課題を考え、様々な活動や調査研究が行える能力の獲得を目指します。



地元企業と連携した特産食品開発の様子(コアカリキョウム・地域学基礎)



講義(国際文化理解)



箱庭療法の実習

# 医学部

医学部は医学科と保健学科の2つの学科で構成され、医学科では医師を、保健学科では看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士の育成を通じて、社会に貢献することを目指しています。1970年に創設されて以来、6,500名以上の卒業生を送り出し、秋田県内はもとより全国各地で医療の最前線に立つとともに、医療界の様々な分野の指導者として活躍しています。

今、日本は激動の時代を迎えています。毎年のように各地で発生する地震や集中豪雨、新型コロナウイルス感染症等、人々の生活や健康が脅かされています。少子高齢化に歯止めはかからず、地方における医師・看護師不足がますます深刻化しています。こういう時代だからこそ、みなさんの力が重要です。皆さんとともに日本の医療・医学・保健・福祉に貢献できるよう、一緒に頑張りましょう。

## ■学部の構成(2学科)

### 【医学科】

医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけた人材を養成します。

### 【保健学科】

看護学・理学療法学・作業療法学の3専攻3講座を設けており、医療専門職(看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士)を養成します。

医学科	医学専攻の40講座と3つの臨床教育協力部門の教員が教育を担当する	
保健学科	専攻	教育担当組織
	看護学	●看護学講座
	理学療法学	●理学療法学講座
	作業療法学	●作業療法学講座



## 医学科

6年

## 入

初年次ゼミ  
教養基礎教育科目  
専門教育科目

臨床実習

卒業試験

学位：学士(医学)

●医師国家試験

## 保健学科

4年

## 学

- ◆看護学専攻
- ◆理学療法学専攻
- ◆作業療法学専攻

初年次ゼミ  
教養基礎教育科目  
専門基礎科目  
専門科目

臨床実習

卒業研究

学位：学士(看護学・保健学)

- 作業療法士国家試験
- 理学療法士国家試験
- (助産師国家試験)※選択
- (保健師国家試験)※選択
- 看護師国家試験

# 理工学部

理工学部は4学科、8コースから構成され、理工学に関連した基礎を身に付けるとともに、各コースにて専門分野を学習し、環境に配慮した科学技術や工学について学びます。近年のデータサイエンス技術の著しい進歩に対応するため、各専門分野にデジタル技術を駆使する方法を学びます。そして、自ら課題を発見して未知の課題に対しても幅広い視野から柔軟に取り組む能力を身に付けます。さらに、学生に留学を積極的に支援し、グローバルな視野を広げることを推進します。

## ■学部の構成(4学科)

### 【生命科学科】

化学と生物学を基盤として、医薬、食料、環境など、ライフサイエンスに関連するさまざまな課題に挑戦する研究者・技術者を育成します。

### ●生命科学コース

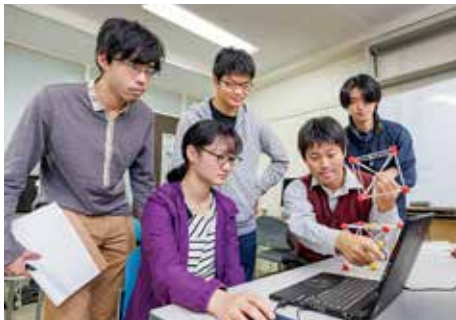
有機合成化学、天然物化学、分子生物学、構造生物学、生物工学、細胞生物学、発生生物学、生理学、バイオインフォマティクス等、生命現象の解明に必要な専門分野を学びます。

### 【物質科学科】

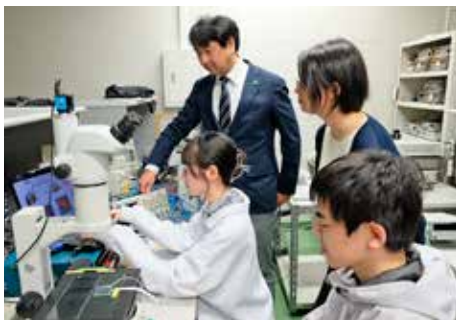
先端機能材料や化学プロセスに携わる研究者・技術者を育成します。

### ●応用化学コース

無機材料、有機材料、およびエネルギーに関連した化学工学からバイオプロセスまで幅広い化学の専門分野を学びます。



材料理工学コース



電気電子工学コース

### ●材料理工学コース

固体物理学、固体化学、金属材料学、セラミック材料学を中心として基礎科学から材料の工学的応用までの幅広い分野について学びます。

### 【数理・電気電子情報学科】

数理学から電気・電子、情報通信の各分野をリードする多彩な人材を育成します。

### ●数理学コース

代数学・幾何学・解析学等の数学、量子力学等の理論物理学、AIを含むコンピュータサイエンス、データベースサイエンスを含む環境科学を中心とする数理学について幅広く学びます。

### ●電気電子工学コース

電磁気学・電気回路などの基礎科目と、電気エネルギー、光・電子デバイス、材料、情報通信、計測制御、システムなどの幅広い専門分野から自分で興味のある科目を選択して学びます。

### ●人間情報工学コース

ヒューマンコンピュータインタラクション、福祉情報工学、画像解析学、情報通信とネットワークを中心として、コンピュータサイエンスを基礎とした高度な応用技術を学びます。

### 【システムデザイン工学科】

新しいものづくりや社会システムの整備・維持管理ができる実践的な技術者を育成します。

### ●機械工学コース

材料、熱流体、制御、製図など、あらゆる産業を支える機械工学の基礎分野に加え、医用生体工学、ロボット工学、流体機械、航空機システム工学などで応用分野を学びます。

### ●土木環境工学コース

構造力学、建設材料学、地盤工学、水理学などを中心として、安全・安心・快適な地域環境を創造・保全する技術について学びます。

## ■通信教育講座

秋田大学理工学部には、国立大学法人唯一の「社会通信教育講座」があります。昭和23年の開講以来、伝統と歴史を背景に、約2,000名を超える修了生を社会に輩出しています。

科学技術に関する教養的な知識を得るための一般科学技術コースと、資源系、材料系、電気電子系の基礎及び専門を学べるコースが用意されています。

# 大学院

## 国際資源学研究所

国際資源学研究所は、地球規模の課題となった資源問題の解決を目指し、資源地球科学分野および資源開発環境学分野に関



する高度な知識と専門性に裏付けられた最先端の教育・研究を進め、地球科学から資源開発、環境保全に至る広範な知識を修得し、グローバルリーダーとして活躍できる人材を養成します。

博士前期課程
資源地球科学専攻 資源開発環境学専攻
博士後期課程
資源学専攻

## 教育学研究所

教育学研究所は、理論と実践の往還を通じて現場の課題を解決し、実践知の継承と創造に取り組む意欲と高度な力量を有する初等中等教員の養成と、教員や学校等を支援して地域の発展に貢献できる高度専門職業人の養成を目的としています。本研究科には、教職実践専攻（教職大学院）と心理教育実践専攻（修士課程）の2専攻があります。



教職大学院（専門職学位課程）	
教職実践専攻	学校マネジメントコース カリキュラム・授業開発コース 発達教育・特別支援教育コース
修士課程	
心理教育実践専攻	心理教育実践コース

## 医学系研究所

医学系研究所は、人類の健康・福祉の発展に寄与する医学・医療・生命科学の最先端研究を推進できる国際的視野を備えた優れた研究者・高度専門医療人を育成することを目的としています。



修士課程
医科学専攻

博士前期課程・博士後期課程			
保健学専攻	博士前期課程	看護学領域 リハビリテーション科学領域	
	博士後期課程	生涯発達・健康支援看護学分野 生活機能・健康行動支援科学分野	
博士課程			
医学専攻	病態制御医学系 社会環境医学系	腫瘍制御医学系 臨床教育協力部門	機能展開医学系

## 理工学研究所

理工学研究所では、各専門分野を体系的に学び、深い知識を習得した上で周辺分野と学際的な連携を積極的に進め、新たな応用を追求し新しい価値を創出する総合的能力を身に付け、グローバルな視野とともに地域貢献への強い想いを持った人材を育成します。様々な分野の概念や手法を統合してまだ誰も形にしたことのないイノベーションを追い求める人材を育成する修士・博士課程教育を実施します。



博士前期課程	
生命科学専攻	生命科学コース
物質科学専攻	応用化学コース 材料理工学コース
数理・電気電子情報学専攻	数理科学コース 電気電子工学コース 人間情報工学コース
システムデザイン工学専攻	機械工学コース 土木環境工学コース
共同サステナブル工学専攻	エレクトロモビリティコース 社会環境システムコース
博士後期課程	
総合理工学専攻	生命科学領域 物質科学領域 数理・電気電子情報学領域 システムデザイン工学領域

## 先進ヘルスケア工学院

先進ヘルスケア工学院は、ヒトの健康寿命の延伸や病気の予防、診断、治療、予後までの過程を、医学と工学を融合させて科学する教育・研究組織です。学生は、講義に加え、病院や介護施設等における実習を通じて経験を積み重ねながら、新しいヘルスケア・医療機器の研究開発に携わることができ、超高齢社会で活躍する人材として育成しています。



修士課程	
先進ヘルスケア工学院	検査・診断支援領域 運動・治療支援領域

# 大

# 学

# 施

# 設

附属図書館

医学部附属病院

国際資源学研究科附属鉱業博物館

附属学校園及び教育研究施設等

- 附属幼稚園 ○附属小学校 ○附属中学校 ○附属特別支援学校 ○附属教職高度化センター
- 附属鉱業博物館
- 附属病院 ○附属病院シミュレーション教育センター
- 附属地域包括ケア・介護予防研修センター ○デジタル医学・医療教育推進センター
- 遠隔医療推進開発研究センター
- 附属クロスオーバー教育創成センター ○附属革新材料研究センター

学内共同教育研究施設

- 情報統括センター ○産学連携推進機構 ○国際資源学教育研究センター
- 地域防災減災総合研究センター ○高齢者医療先端研究センター
- 電動化システム共同研究センター ○自殺予防総合研究センター
- 感染統括制御・疫学・分子病態研究センター ○バイオサイエンス教育・研究サポートセンター
- 放射性同位元素センター ○環境安全センター ○地方創生センター

センター

- 評価・IRセンター ○高等教育グローバルセンター ○学生支援総合センター ○高大接続センター
- 教職課程・キャリア支援センター

技術組織

- 総合技術部

福利厚生施設等

- 保健管理センター
- 学生会館(クレール)〈手形キャンパス〉 ○本道会館(メディココ)〈本道キャンパス〉
- 学生寮 ○国際交流会館 ○留学生会館

体育施設

- 陸上競技場 ○野球場 ○球技場 ○ハンドボール場 ○大体育館 ○小体育館
- 柔剣道場(武道場) ○弓道場 ○テニスコート ○プール(25m) ○運動場

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

インフォメーションセンター

# 附属図書館

University Library



中央図書館(正面玄関)

- 附属図書館は中央図書館(手形キャンパス)と医学図書館(本道キャンパス)からなり、図書・雑誌・視聴覚資料・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と提供を行っています。

● 蔵書冊数 中央図書館:438千冊 医学図書館:112千冊

## 〈開館時間〉

区 分	授業期間	長期休業期間
平 日	8:30~22:00	8:30~17:00
土・日・祝	12:00~18:00	休 館

※開館時間を変更する場合があります。

- 図書館では資料の閲覧・貸出のほか、図書館ホームページを起点として、電子ブック・電子ジャーナル・データベース等の様々な学術資源を提供し、学生・教職員の学習・教育・研究を支援しています。

〈図書館HPで提供している機能〉

- 蔵書検索 ● 資料の予約・延長
- 学外文献取り寄せ
- 購入リクエスト
- オンラインレファレンス

また、本学が所蔵する鉱山資料・貴重資料をデジタル化し、Webページで広く一般に公開しています。秋田大学学術情報リポジトリにより、学内研究者による研究成果の発信もを行っています。



中央図書館閲覧フロア



特別コレクション。  
18世紀に出版された  
シェイクスピア全集等を  
所蔵しています



中央図書館 commons



医学図書館 commons



鉱山絵図絵巻デジタルギャラリー(<https://archive.keiyou.jp/akitaunivda>)

- 詳細についてのお問い合わせは

〈中央図書館・利用サービス担当〉

TEL.018-889-2279 E-mail: [libriyo@jimu.akita-u.ac.jp](mailto:libriyo@jimu.akita-u.ac.jp)

〈医学図書館〉

TEL.018-884-6052 E-mail: [ibun@jimu.akita-u.ac.jp](mailto:ibun@jimu.akita-u.ac.jp)

〈附属図書館ホームページ〉

<https://www.lib.akita-u.ac.jp/top/>

# 医学部附属病院

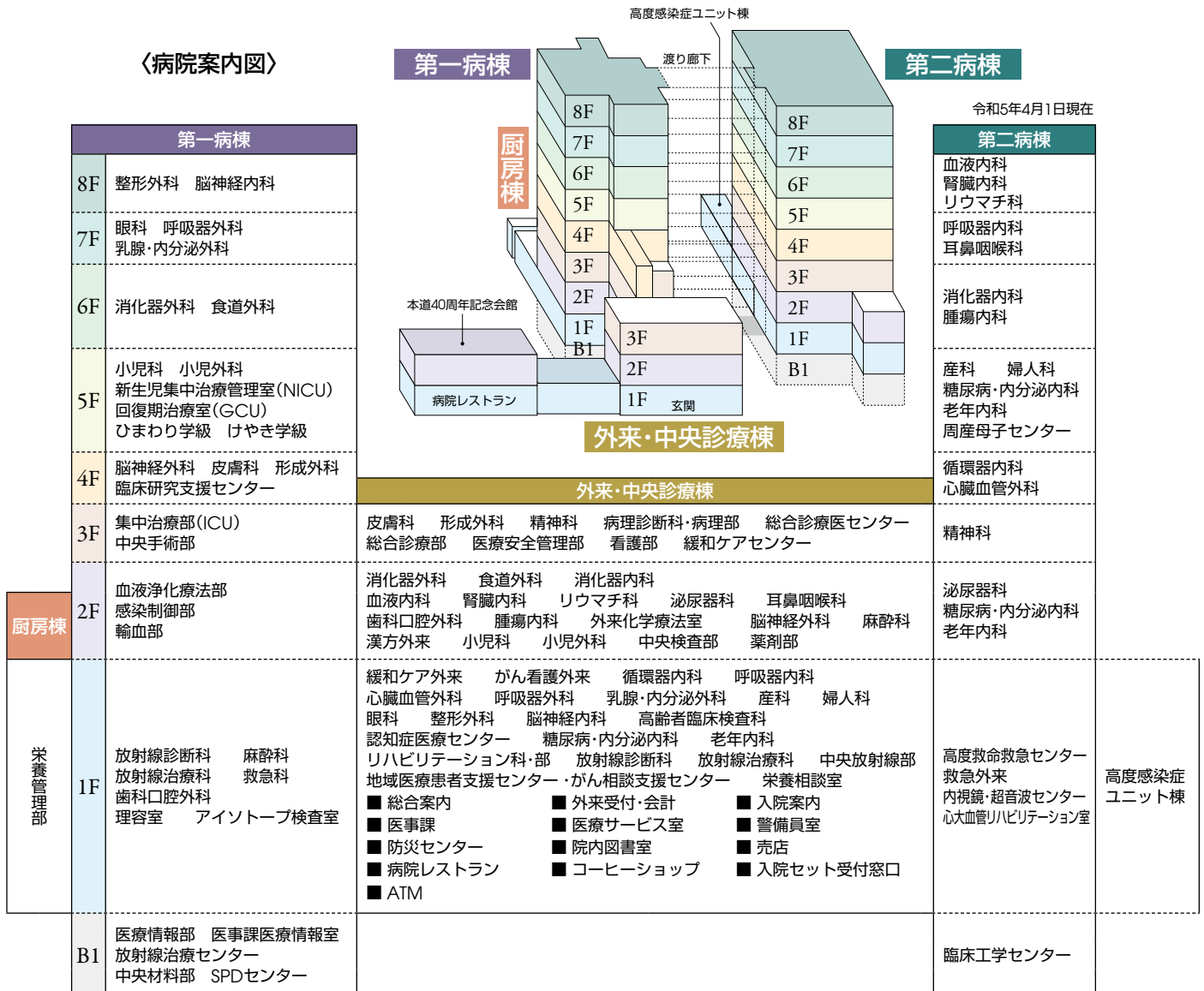


医学部附属病院(正面)

医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成6年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することをとおして、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心としての役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

## 〈病院案内図〉





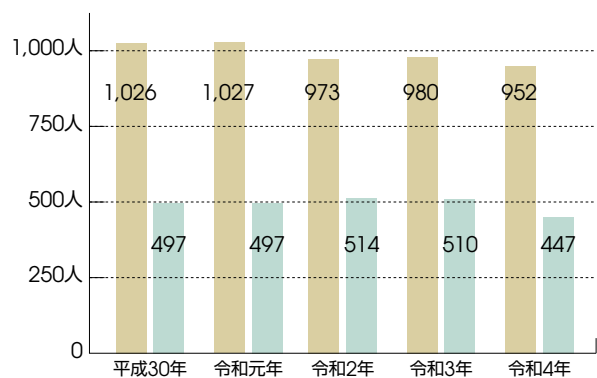
〈診療科別入院及び外来患者数〉

令和4年度

区分	入院		外来	
	延患者数	一日当平均患者数	延患者数	一日当平均患者数
消化器内科	11,037	30	17,072	70
脳神経内科	1,996	5	4,591	19
循環器内科	9,189	25	9,152	38
呼吸器内科	5,108	14	4,296	18
血液内科	8,913	24	6,100	25
腎臓内科	1,082	3	2,038	8
リウマチ科	1,552	4	5,758	24
糖尿病・内分泌内科	3,240	9	13,256	55
老年内科	0	0	0	0
消化器外科	5,918	16	3,316	14
呼吸器外科	4,140	11	2,553	11
食道外科	4,888	13	1,950	8
乳腺・内分泌外科	1,527	4	7,055	29
心臓血管外科	9,966	27	2,141	9
脳神経外科	9,062	25	5,377	22
小児外科	829	2	1,646	7
小児科	8,723	24	8,170	34
産科	5,088	14	3,832	16
婦人科	4,920	13	13,284	55
精神科	9,378	26	13,972	57
整形外科	11,909	33	15,831	65
皮膚科	3,876	11	17,814	73
形成外科	512	1	1,296	5
泌尿器科	12,017	33	15,109	62
眼科	8,537	23	15,417	63
耳鼻咽喉科	8,299	23	12,553	52
放射線診断科	73	0	1,000	4
放射線治療科	1,137	3	5,396	22
麻酔科	0	0	1,117	5
リハビリテーション科	0	0	0	0
腫瘍内科	3,952	11	3,053	13
救急科・部	3,530	10	3,166	13
病理診断科	0	0	0	0
歯科口腔外科	2,673	7	13,742	57
高齢者臨床検査科	0	0	309	1
計	163,071	447	231,362	952

〈年度別1日平均患者数〉

● 外来患者数 ● 入院患者数



〈中央診療施設等〉

- 中央検査部 ● 中央手術部 ● 中央放射線部
  - 中央材料部 ● 集中治療部 ● 高度救命救急センター
  - 輸血部 ● リハビリテーション部 ● 医療情報部
  - 血液浄化療法部 ● 中央病歴部
  - 周産母子センター ● 病理部 ● 総合診療部
  - 臨床研究支援センター ● 臨床工学センター
  - 移植検査センター ● 総合臨床教育研修センター
  - 内視鏡・超音波センター ● 遺伝子医療部
  - 腫瘍情報センター
  - 地域医療患者支援センター・がん相談支援センター
  - 化学療法部 ● 緩和ケアセンター
  - 栄養管理部 ● 肝疾患相談センター
  - 腎疾患先端医療センター ● 総合診療医センター
  - 脳卒中包括医療センター ● 認知症医療センター
  - がんゲノム診療センター ● NP室
- 
- 医療安全管理部 ● 感染制御部 ● 薬剤部 ● 看護部



ヘリポート及び立体駐車場

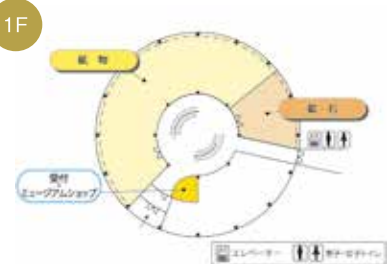
# 国際資源学研究科附属鉱業博物館 Mineral Industry Museum



鉱業博物館は、秋田大学の研究活動において収集された、地球と資源に関する資料や標本を展示・保管している国際資源学研究科の附属施設です。

その沿革は、鉱山技術者養成のため1910年に設立された秋田鉱山専門学校に始まります。その後、新制大学発足当時の鉱山博物館を経て1961年に現在の建物が建設され、鉱業博物館となりました。

常時公開されている展示棟では、様々な鉱物・鉱石・岩石・化石を見学でき、地球の歴史と資源の生成について学ぶことができます。また、鉱山機械の実機や精密模型を用いて、資源開発の流れと鉱山技術をわかりやすく解説しています。また、特別展や開放講座を通して、最新の研究や幅広い学術分野の成果を紹介しています。



1階は、鉱物と鉱石を展示しています。ここに展示された標本は秋田鉱山専門学校設立以来のスタッフや学生、OB/OGらが収集したり、鉱山から寄贈された標本が母体になっています。国内最大規模の約500種2200点におよぶ貴重な標本を見ることができます。



2階は隕石、岩石、地層、化石の標本を展示しています。展示室に入ると「太陽系の中の地球」「岩石」「地球表層の諸現象」「秋田の生い立ち」「地球生命史」の5つの展示コーナーがあります。私たちの地球はどのような物質からできていて、どのような現象が起きていたのか、生命はいつごろ誕生しどのように進化したのかについて、多数の標本とパネル、そしてデジタルコンテンツを利用して読み解くことができます。



3階は、「資源開発」についての展示です。資源の開発技術は、多岐にわたっていますので、当館では、資源開発の流れを「探鉱」「採鉱・採油」「選鉱」「製錬」の4つの工程に分類し、鉱物の探査から金属の製造まで、それぞれを独立したコーナーとして展示しています。他にも、「鉱物資源の分布」「鉱山の保安技術」「自然エネルギー」「秋田の鉱山史」の展示を設け、鉱山技術の全容とその変遷が学べるようになっています。

## ご利用案内

- 開館時間：9:00～16:00
- 休館日：年末年始（12月26日～翌年1月5日）  
12月～2月の日曜日と祝日
- 入館料：大人100円／高校生以下無料
- 無料館内案内：サイエンスボランティアによる館内案内を行っています。（一週間前まで要予約）



Googleストリートビューサービスにて鉱業博物館内を公開しています。展示棟1階から3階までを、360度のパノラマ写真で見渡せるようになりました。パソコンやスマートフォンの画面から簡単に見ることができますので、館内のバーチャル体験や、ご見学前の下見などにご活用ください。Googleマップで、「鉱業博物館」と検索していただくか、こちらの二次元バーコードからご覧いただくことができます。



# 附属学校園及び教育研究施設等

Affiliated School and  
Facilities for Education  
and Research

令和5年5月1日現在



附属中学校  
●附属学校園

区 分	総定員	学級数	現 員							
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
附属幼稚園	3年保育	96	4	〈3歳児〉14		〈4歳児〉23		〈5歳児〉28		65
附属小学校		576	18	95	96	91	95	92	87	556
附属中学校		384	12	128	128	126	—			382
附属 特別支援学校	小学部	18	3	6		5		3		14
	中学部	18	3	8	7	7	—			22
	高等部	24	3	7	5	8	—			20



附属教職高度化センター

【施設目的】  
教員の資質向上と教員養成の高度化、教職に関する理論的実践的研究、臨床心理学的研究

【研究部門等】 教職研究部門、教育実践研究部門、教員育成連携支援部門、臨床心理学部門、教職キャリア支援室、県総合教育センター・市教育研究所連携推進室、臨床心理相談室

附属鉱業博物館

【施設目的】  
● 鉱業に関する教育、研究及び調査を行う。  
● 鉱業関係の博物館資料の収集、保管及び展示

● 標本資料／約20,000点  
● 公開標本／約3,300点

附属病院

【施設目的】  
患者の診療を通じて医学の教育及び研究を行う。

● 診療科／35科 ● 病床数／615床



附属病院シミュレーション教育センター

【施設目的】 秋田県内医療人の更なるスキルアップと質の高い専門医の養成に繋げ、医学シミュレーション教育が秋田県の医療再生の礎となるよう、秋田県と秋田大学の協同によって開設

● 1階：TVセミナー室 ● 2階：緊急処置ラボ、臨床基本手技ラボ ● 3階：外科研修室、外科手技ラボ、産婦人科手技ラボ、臨床専門手技ラボ

附属地域包括ケア・介護予防研修センター

【施設目的】  
高齢化率全国1位の秋田県における地域包括ケアシステム(自分が望む場で自分らしく最後まで暮らせるような地域のケア体制)構築に向けて、大学の持つ教育・研究・地域貢献機能を用いて参与し貢献する。

【センター活動内容】  
看護職、介護職、ケアマネジャーなどを対象とした、教育活動としての現任教育プログラムの開講、専門職や地域住民を対象とした講演会の開催(28年度)、地域貢献として認知症サポーター養成の出前講座の開催、暮らしの保健室開設(27年度)など。

デジタル医学・医療教育推進センター

【施設目的】  
学内各分野および県内の教育協力病院が連携して先進的なデジタル技術を活用した医学教育を共有するネットワークを構築し、将来に向けて卒前・卒後教育をシームレスに推進していくことで、医療の質を向上することを目的とする。

【センター活動内容】  
各分野からのセンター委員とともにデジタル技術を駆使した医学・医療教育(講座・演習・評価)教材の作成やその活用をサポートし、次世代の理想的な医学・医療教育体制を構築する。

遠隔医療推進開発研究センター

【施設目的】  
医学部附属病院が実施する遠隔医療および医学系研究科が関与する遠隔医療の推進策や関連研究の開発を図るため、各診療科や各講座・部門と連携した推進策を実施し、医療の充実に寄与することを目的とする。

【センター活動内容】  
遠隔医療プロジェクトの有機的な連携・統合の推進、新規プロジェクトの提案・推進、新規遠隔医療の開発、地域や自治体との交渉や共同研究。



〈理工学研究科〉

### ● 附属クロスオーバー教育創成センター

【施設目的】

理工系実践教育に関するさまざまな新しい取り組みを行い、学生及び教員双方の質の向上に貢献する。

【センター活動内容】

留学相談、子どもものづくり教室、テクノキャリアアゼミなど



〈理工学研究科〉

### ● 附属革新材料研究センター

【施設目的】

秋田大学の強みである「材料・素材研究」をもとに新しい価値を創出

【専任教員・兼務教員の研究分野】

水素製造用の電極材料、触媒  
蓄電池用の電極材料  
太陽電池用の電子輸送層材料

## 学内共同教育研究施設

University Common Use Facilities for Education and Research



### ● 情報統括センター

【設備等】

- 教育用PC(約400台)：PC実習室1,4、PC実習室A/B、本道PC実習室、中央図書館、医学図書館  
※総合研究棟(情報教育系)整備中
- 情報サービス:Webメール、大判プリンタ、演算サーバ、仮想サーバホスティング
- 情報ネットワーク  
有線LAN(フロアスイッチまで1~4Gbps)、キャンパスWi-Fi、学外接続ネットワーク(20Gbps)

### ● 産学連携推進機構

【設置目的等】

民間等外部の機関との共同研究を推進することにより、秋田大学の教育・研究の進展を図るとともに、研究成果の知的財産化及び知的財産の社会実装を促進し、社会における技術開発の振興及び技術発展に寄与する。

### ● 国際資源学教育研究センター

【設置目的等】

国際的視野を持つ高度資源開発人材の養成並びに持続可能な資源開発に取り組むとともに、我が国の資源セキュリティと資源の安定供給に貢献し、国際的な人材ネットワークを構築することで資源分野の教育・研究を推進する。

【設備等】

教育研究用石油・天然ガス、地熱井掘削シミュレータ(令和4年度中運用開始予定)

### ● 地域防災減災総合研究センター

【設置目的等】

地域防災減災対策に関する教育研究及び事業推進の実施拠点として、自治体及び民間団体等と連携して地域防災減災対策事業を推進することにより、地域の防災力強化に資することを目的とする。

### ● 高齢者医療先端研究センター

【設置目的等】

高齢者医療等に関する体制充実を図ることにより、認知症及び地域社会学の知見を踏まえた高齢化社会の学際的研究と高齢者医療の先端的研究を推進し、地域医療の向上と長寿・健康教育研究の発展に寄与することを目的とする。

### ● 電動化システム共同研究センター

【設置目的等】

産学官共同による航空機をはじめとする電動化システムの研究開発を推進させ、企業・大学・学生の起業家精神を喚起する産業人材を育成することで、若者に夢を与え、高度人材が活躍することができる創造的将来産業を創出し、地域の持続的発展と活力ある地域社会の実現に寄与することを目的とする。

### ● 自殺予防総合研究センター

【設置目的等】

自殺予防対策に関する教育研究及び事業推進の実施拠点として、自治体及び民間団体等と連携し、地域における自殺予防対策事業を推進することにより、地域の自殺予防対策強化に資することを目的とする。

### ● 感染統括制御・疫学・分子病態研究センター

【設置目的等】

感染症に関する臨床と基礎研究の融合と交流レベルを高め、臨床・研究の両面での活動成果を世界に発信するとともに、感染症対応医療人材及び感染症研究者を育成し、感染症の臨床と基礎研究をリードする活動拠点とすることを目的とする。



## ● バイオサイエンス教育・研究サポートセンター

### 【設備等】

- 動物実験部門：【飼育設備】マウス、ラット、モルモット、ウサギ、ブタなどに対応【特殊実験設備】感染動物実験室、ケミカルハザード実験室など【解析機器】3DマイクロX線CT装置、超音波イメージングシステム、in vivo 発光・蛍光イメージングシステム、X線テレビシステムなど【研究支援業務】生殖学的技術支援（凍結保存、個体作製）、遺伝子改変動物の作出、動物実験手技の指導など
- 放射性同位元素部門：【設備】サーベイメータ、液体シンチレーションカウンター、スキャナタイプ画像解析装置など【使用承認核種】 $^{32}\text{P}$ 、 $^3\text{H}$ 、 $^{125}\text{I}$  など15核種【実験サポート体制】RI業務従事者の実験を部門職員が受託するサービス有り（応相談）
- 分子医学部門：【共用設備】超解像共焦点レーザー顕微鏡、透過型電子顕微鏡、フローサイトメータ、次世代シーケンサ、LC-MS各種、オールインワン蛍光顕微鏡、遠心機各種、分光光度計各種、培養室、バイオハザード室、クリオスタット、レーザーマイクロダイセクション、液体窒素、超低温フリーザ、大判プリンタなど【受託】組織標本作製、遺伝子解析、電顕標本作製、滅菌
- 教育研究連携部門



## ● 放射性同位元素センター

### 【設備等】

- 非密封線源実験エリア：-10℃及び4℃低温実験室：オークリッジフード3基及び安全キャビネット1基、液体シンチレーションカウンター、トリチウムガス計測・実験装置、各種スケラー、サーベイメータ、プレートアナライザ
- 密封線源実験エリア：マルチチャンネルγ線スペクトルメータ、高速液体クロマトグラフ質量分析装置、イメージアナライザ、水平型X線回折装置

16種類の非密封線源及び5種類の密封線源が使用可能



## ● 環境安全センター

### 【設備等】

- 廃液処理棟：無機系廃液－フェライト化処理、有機系廃液／有害固形廃棄物－噴霧熱燃焼／焼却処理、水銀・シアン系廃液－酸化分解・吸着処理、フッ素・リン酸系廃液－石灰化処理、COD廃液－フェントン処理
- 実験・分析棟：ガスクロマトグラフ／質量分析計、ガスクロマトグラフ、原子吸光光度計、液体クロマトグラフ、X線分析装置、その他必要機器



## ● 地方創生センター1号館

### 【設備等】

ドラフトチャンバー、マイクロウェーブ試料前処理システム、超高分解能電界放射型走査型電子顕微鏡、炭素・水素・窒素・硫黄・酸素全自動分析装置、フレイム/ファーンズ高分解能連続光源原子吸光分析装置、元素分析装置、高分解能核磁気共鳴スペクトル装置(600MHz)、X線光電子分光分析装置、マイクロフォーカスX線CT透視装置、水銀ポロシメータ、超高速液体クロマトグラフシステム、光散乱GPC分子量測定装置、テラヘルツ分光測定装置、比表面積・細孔径分布測定装置、触媒分析装置、リアルタイムPCRシステム、マルチラベルカウンター、回転式粘度計、モジュール式電気化学測定システム、共焦点レーザー走査型顕微鏡、バイオクリーンベンチ

## ● 地方創生センター2号館

### 【設備等】

- 新リサイクル技術・評価システム：ディスク型手動粉砕機、ロール型磁選機、非鉄金属選別機（渦電流選別装置）、エアテーブル、ICP発光分光分析装置、イオンクロマトグラフィー、蛍光X線分光分析装置、ナノ粒子解析装置、示差熱天秤、金属分散度測定装置、走査型プローブ顕微鏡、形状測定マイクロスコープ、真空アーク溶解炉など
- 高度機能素材設計・評価システム：電界放射型走査電子顕微鏡、多元合金膜作製装置、イオンコーター（Au,C）、高真空型走査プローブ顕微鏡、高感度磁化測定装置、高真空熱処理装置、薄膜X線回折装置、粉末X線回折装置、磁気記憶装置材料分析・評価システム、ナノ粒子粒径解析/ゼータ電位計、液体窒素製造装置、表面粗さ測定装置など

## ● 地方創生センター

### 【設置目的等】

地方創生に取り組む地(知)の拠点大学として、地域との協働による地域振興策の取組並びに地域の産業を成長させる研究を推進させ、もって地域を担う人材育成を推進し、地域の産業振興と活性化に貢献する。

# センター

Centers for Education and Research

	設置目的等
評価・IRセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援</li> <li>● 評価とそのシステムについての研究・開発</li> <li>● 学内外の各種情報の活用・分析</li> </ul>
高等教育グローバルセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進</li> <li>● 教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発による改善・充実</li> <li>● 国際交流に関する企画・広報活動</li> <li>● 国際学術交流の推進</li> <li>● 国際教育交流の推進</li> </ul>
学生支援総合センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 種々の生活相談及び授業料免除や奨学生推薦等の生活支援</li> <li>● 大学祭等の課外活動支援及び課外活動施設の整備・充実の推進</li> <li>● 就職ガイダンスの実施及び就職情報提供、就職相談等の就職活動支援</li> </ul>
高大接続センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高校と大学の学びの接続</li> <li>● アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜方法の研究・開発</li> <li>● 入学希望者に対する広報活動の企画・立案</li> </ul>
教職課程・キャリア支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 秋田大学における教職課程の管理運営</li> <li>● 学校教員に対する研修支援</li> </ul>

# 技術組織

Technological Organization

	設置目的等
総合技術部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育研究活動の技術支援を全学的に推進</li> <li>● 技術系職員が持つ専門技術を本学の共通の財産として継承・発展させ、その能力及び資質等の向上を図るとともに優れた人材を確保</li> </ul>

# 福利厚生施設等

Welfare Facilities

施設	主な設備内容			
保健管理センター	胸部X線装置、健診用機器(身長体重計、血圧計、視力計)、心電計、体組成計、聴力検査室、診察室、処置室、相談室2室、休養室(ベッド3床)、多目的WC			
大学会館(クレール) (手形キャンパス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1階/管理事務室、食堂、厨房、食品・弁当コーナー、アメニティコーナー、キャリアステーション、自販機コーナー、イベントホール</li> <li>●2階/研修室(1・2・3)、和室(あじさい・りんどう)、会議室、書籍・文具・旅行コーナー</li> </ul>			
本道会館(メディココ) (本道キャンパス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1階/食堂、厨房、売店、事務室、倉庫</li> <li>●2階/研修室、談話室、部室、小会議室、物品庫</li> </ul>			
学 生 寮	区 分	手形寮(女子) (留学生除く)	本道寮(女子) (留学生除く)	西谷地寮(男子) (留学生含む)
	建物延面積	746㎡	1,076㎡	3,171㎡
	室 数	40室	31室	130室
	収容定員	40人	31人	130人
国際交流会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居 室/単身室(外国人留学生用28室、外国人研究者用5室)、家族室(外国人研究者用2室)、夫婦室(外国人研究者用3室)</li> <li>●管理関係/管理室、設備室、倉庫</li> <li>●共用関係/多目的ホール、ミーティングルーム、洗濯室</li> </ul>			
留学生会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居室/単身室(27室)、夫婦室(3室)</li> <li>●管理関係/事務室、機械室、倉庫</li> <li>●共用関係/談話室、和室、洗濯室</li> </ul>			



# 体育施設

Sports Facilities

施設	面 積(㎡)			備 考
	手形地区	本道地区	保戸野地区	
陸上競技場	24,637	} 20,909	—	400m/6コース、メイン/8コース
野球場	20,378		—	—
球技場	陸上競技場 と併用	陸上競技場と 併用	—	サッカー、ラグビー(本道地区はサッカー、 ラグビー、準硬式野球)
ハンドボール場			—	—
大体育館	2,591	1,079	3,588	バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、 バドミントン、柔道、剣道 等 (本道地区はバレーボール、バドミントン、 バスケットボール、卓球、フットサル、ハンドボール)
小体育館	750	—	—	体操、卓球、空手道 等
柔剣道場(武道場)	—	—	373	柔道、剣道
弓道場	149	—	—	的場(44㎡)は含まない
テニスコート	(5面)3,238	(5面)3,614	—	—
プール(25m)	800	—	—	7コース
運動場	—	—	14,923	—



# 横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

秋田大学の県内への情報発信と、より密接な地域連携を目指して、横手市、北秋田市、男鹿市へそれぞれ分校を開設しています。

## 横手分校

〈平成21年8月5日開設〉

- リモート公開講座のサテライト会場、健康増進に関する公開講座の開催等、地域の文化・健康に関する推進事業を実施しています。
- 教師を目指す学生たちを対象とした「教師ミニニ体験」などの小中高大連携事業を推進しています。

### ● 連絡先

〒013-0045 横手市南町13-1  
横手市民会館内

- TEL 0182-38-8304
- FAX 0182-32-7871

## 北秋田分校

〈平成22年11月17日開設〉

- スポーツ少年団員・中学生及びその保護者・指導者を対象に、超音波検査による、骨や筋肉の状態、腕や足・体幹の柔軟性、フォームなどをチェックし、その状態に適したストレッチやフォーム指導を実施しています。
- 小中学生を対象とした科学教室を開催しています。

### ● 連絡先

〒018-3312 北秋田市花園町19-1  
北秋田市総合政策課内

- TEL 090-7063-6489

## 男鹿なまはげ分校

〈平成25年9月30日開設〉

- 学生力を活用し、子どもたちへの自学自習支援や医学部訪問事業を行い、学力の底上げに取り組んでいます。
- 男鹿市高齢者の健康寿命の延伸を目指し、運動機能の維持向上に取り組んでいます。

### ● 連絡先

〒010-0595 男鹿市船川船川字泉台66-1  
男鹿市総務企画部 企画政策課

- TEL 0185-24-9126
- FAX 0185-23-2424

# インフォメーションセンター

Information Center

秋田大学の教育・研究の取り組みや、常設展示として成田為三・南木佳士など著名な卒業生の業績や作品等を展示・紹介。また、学生や教職員による企画展も開催しています。

## 〈入館案内〉

- 開館時間／10:30～17:00
- 開館日／平日のみ(入館無料)



インフォメーションセンター外観



オープンスペースの様子

## 〈主な常設展示〉



なりた ためそう  
**成田 為三**

秋田県師範学校(教育文化学部の前身)出身で、「浜辺の歌」「秋田県民歌」など、300曲以上の優れた作品を世に残しています。本格的に作曲の勉強をしたのは、秋田県師範学校時代であることが研究により明らかにされています。



なぎ けいし  
**南木 佳士**

秋田大学医学部の第二期生である彼は、長野県佐久総合病院で医師を続けながら、作家活動を行っています。作品には、新設間もない秋田大学医学部を舞台に、医学部在学の4人の主人公が抱える悩みや葛藤などの青春群像を描いた「医学学生」や、第100回芥川賞を受賞した「ダイヤモンドダスト」等があります。



まつだ とまこ  
**松田 解子**

秋田県女子師範学校(教育文化学部の前身)出身の小説家で、数多くの作品を世に残しています。1966年、実母をモデルに荒川鉱山に生きた人々を描いた長編「おりん口伝」の連載を始め、この作品で第8回田村俊子賞(1968年)等を受賞しました。



あべ まさたつ  
**阿部 雅龍**

工学資源学部出身の「夢を追う男」冒険家として活躍。大学在学時から自転車での南米縦断やアマゾン川いかだ下りなど、数々の冒険を成し遂げてきました。現在、秋田県出身の南極探検家白瀬(しらせのぶ)中尉の足跡を辿る南極点到達を目指しています。



# 資料編

---

- 沿革
- 歴代学長
- 運営組織
- 教育研究組織
- 事務組織
- 役職員
- 学生の定員・現員
- 入学志願者・入学状況
- 出身高校所在地別在学状況
- 卒業生・修了者数
- 学位授与数
- 卒業生等就職状況
- 令和3年度学生表彰(学業奨励金)受賞者
- 令和4年度学生表彰等受賞者
- 外国人留学生数
- 外国人研究員等
- 国際交流協定校
- 公開講座
- 国内機関との連携・協力協定
- 役員数
- 教職員数
- 令和5年度予算
- 外部資金受入状況
- 令和4年度科学研究費助成事業採択状況
- 土地・建物
- 各連絡先・所在地一覧
- 手形地区施設配置図
- 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
- アクセス

# 沿革

Historical Sketch



明治43年(1910)3月  
秋田鉱山専門学校(官立)

明治6年(1873)9月  
秋田伝習学校

明治7年(1874)5月  
秋田太平学校

明治11年(1878)4月  
秋田県師範学校

明治11年(1878)12月  
秋田師範学校

明治13年(1880)5月  
秋田女子師範学校

明治19年(1886)8月  
秋田県尋常師範学校

明治31年(1898)4月  
秋田県師範学校

明治42年(1909)4月  
秋田県女子師範学校

昭和18年(1943)4月  
秋田師範学校(官立)

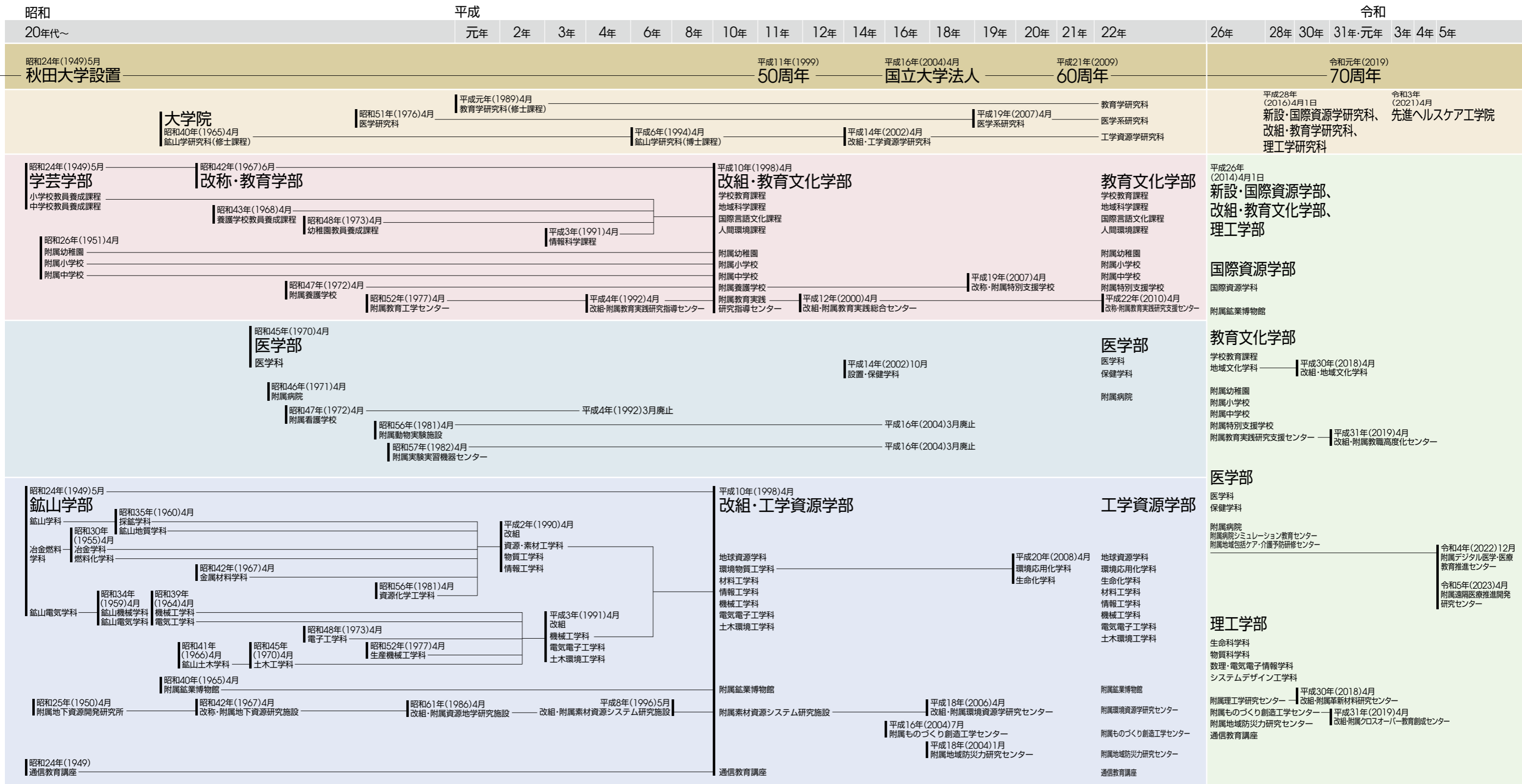
大正13年(1924)3月  
秋田県立実業補習学校  
教員養成所

昭和10年(1935)4月  
秋田県立青年学校  
教員養成所

昭和19年(1944)4月  
秋田青年師範学校(官立)

## ●百周年記念館(平成24年10月竣工)

工学資源学部創立100周年を記念し建造  
秋田大学の前身である秋田鉱山専門学校の外観を再現



## 医療技術短期大学部

〈平成元年(1989)4月~平成19年(2007)3月〉

- 理学療法学科・作業療法学科  
〈平成2年(1990)4月分離増設〉
- 【看護学科〈平成元年(1989)10月〉】

## 専攻科

- 鉱山学専攻科  
〈昭和29年(1954)4月~昭和40年(1965)3月〉
- 教育専攻科  
〈昭和40年(1965)4月~平成元年(1989)3月〉
- 特殊教育特別専攻科  
〈昭和55年(1980)4月~平成20年(2008)3月〉

## 学内共同教育研究施設

- 産学連携推進機構〈平成19年(2007)11月〉  
【知的財産本部〈平成16年(2004)4月〉+地域共同研究センター〈平成5年(1993)4月〉】
- 情報統括センター〈平成27年(2015)4月〉【情報処理センター〈昭和64年(1989)1月〉】
- バイオサイエンス教育・研究サポートセンター〈平成28年(2016)4月〉【バイオサイエンス教育・研究センター〈平成16年(2004)4月〉】
- 放射性同位元素センター〈昭和47年(1974)6月〉
- 環境安全センター〈平成16年(2004)4月〉
- 国際資源学教育研究センター〈平成21年(2009)10月〉
- 地方創生センター〈平成28年(2016)4月〉【地域創生センター〈平成23年(2011)4月〉+ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー  
〈平成13年(2001)5月〉+ベンチャーインキュベーションセンター〈平成24年(2012)10月〉】
- 高齢者医療先端研究センター〈平成30年(2018)1月〉
- 電動化システム共同研究センター〈令和3年(2021)4月〉
- 自殺予防総合研究センター〈令和3年(2021)4月〉
- 地域防災減災総合研究センター〈令和4年(2022)4月〉
- 感染統括制御・疫学・分子病態研究センター〈令和5年(2023)3月〉

## センター

- 評価・IRセンター〈平成29年(2017)4月〉  
【評価センター〈平成16年(2004)4月〉】
- 高等教育グローバルセンター〈平成31年(2019)4月〉
- 学生支援総合センター〈平成16年(2004)4月〉
- 高大接続センター〈平成29年(2017)4月〉
- 教職課程・キャリア支援センター〈令和4年(2022)4月〉  
【教員免許状更新講習推進センター〈平成21年(2009)4月〉】
- ※社会貢献推進機構  
〈平成16年(2004)4月~平成21年(2009)3月〉

- 附属図書館  
〈昭和24年(1949)5月〉
- 保健管理センター  
〈昭和49年(1974)4月〉
- 地(知)の拠点推進本部  
〈平成28年(2016)4月〉



# 歴代学長



佐野 秀之助  
(昭25.5.6~昭30.12.24)



渡邊 萬次郎  
(昭31.3.1~昭41.2.28)



伊藤 泰一  
(昭41.3.1~昭44.6.9)



渡邊 武男  
(昭46.2.23~昭51.2.22)



九嶋 勝司  
(昭51.2.23~昭56.2.22)



梅津 良之  
(昭56.2.23~昭61.2.22)



渡部 美種  
(昭61.2.23~平3.2.22)



新野 直吉  
(平3.2.23~平8.2.22)



徳田 弘  
(平8.2.23~平13.2.22)



三浦 亮  
(平13.2.23~平20.3.31)



吉村 昇  
(平20.4.1~平26.3.31)



澤田 賢一  
(平26.4.1~平28.3.1)



山本 文雄  
(平28.4.1~)

事務  
取扱

劔木 亨弘  
(昭24.5.31~昭24.7.30)

池田 謙三  
(昭24.7.31~昭25.5.5)

五十嵐 勇  
(昭30.12.25~昭31.2.29)

藤島 主殿  
(昭44.6.10~昭46.2.22)

学長  
代行

小川 信明  
(平28.3.2~平28.3.31)

**経営協議会**  
(15人)  
Management Committee

経営に関する重要事項を審議

- 
- 学長
- 
- 理事（総括・総務・人事・情報担当）
- 
- 理事（財務・施設・環境担当）
- 
- 理事（研究・地方創生・広報担当）
- 
- 理事（経営分析担当）〈非常勤〉
- 
- 医学部附属病院長
- 
- 副学長（評価・IR・新学部設置担当）
- 
- 学外委員（8人）

**役員会**  
(7人)  
Board of Directors

経営、教学の両面にわたり、  
特定の重要事項について、  
学長の意味決定に先立ち議決

- 
- 学長
- 
- 理事（総括・総務・人事・情報担当）
- 
- 理事（研究・地方創生・広報担当）
- 
- 理事（教育・国際担当）
- 
- 理事（学生担当）
- 
- 理事（財務・施設・環境担当）
- 
- 理事（経営分析担当）〈非常勤〉

**監事**  
(2人)  
〈うち、非常勤1人〉  
Auditors

**教育研究評議会**  
(23人)  
Education and  
Research Council

教育に関する重要事項を審議

- 
- 学長
- 
- 理事（総括・総務・人事・情報担当）
- 
- 理事（研究・地方創生・広報担当）
- 
- 理事（教育・国際担当）
- 
- 理事（学生担当）
- 
- 副学長（評価・IR・新学部設置担当）
- 
- 国際資源学研究科長
- 
- 教育文化学部長
- 
- 医学系研究科長
- 
- 理工学研究科長
- 
- 先進ヘルスケア工学院院长
- 
- 附属図書館長
- 
- 医学部附属病院長
- 
- 産学連携推進機構長
- 
- 教育推進主管
- 
- 各学部長等が推薦する  
当該学部等の教授

**学長選考・監察会議**  
(10人)

- 
- 経営協議会の学外委員で、経営協議会において選出された者（5人）
- 
- 国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長
- 
- 理事（総括・総務・人事・情報担当）

**大学運営会議**  
(13人)

- 
- 学長
- 
- 理事（総括・総務・人事・情報担当）／理事（研究・地方創生・広報担当）  
理事（教育・国際担当）／理事（学生担当）／理事（財務・施設・環境担当）
- 
- 副学長（評価・IR・新学部設置担当）
- 
- 国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長／附属図書館長／医学部附属病院長

# 教育研究組織

Academic Organization

秋田大学  
Akita University



# 事務組織

Administrative Organization

## 学長





# 役職員

Administrative Staff

令和5年4月1日現在

## 役員等

学長	山本 文雄
理事(総括・総務・人事・情報担当)(兼)総括副学長	真鍋 雅文
理事(研究・地方創生・広報担当)(兼)副学長	尾野 恭一
理事(教育・国際担当)(兼)副学長	後藤 猛
理事(学生担当)(兼)副学長	疋田 正喜
理事(財務・施設・環境担当)	堀江 直純
理事(経営分析担当)(非常勤)	工藤 孝徳
監事	播磨屋 寿敏
監事(非常勤)	越山 薫
副学長(評価・IR・新学部設置担当)	長縄 明大
副学長(病院担当)	南谷 佳弘
副学長(国際戦略担当)	藤井 光

## 学長補佐

学長補佐(ハラスメント担当)	水戸部 一孝
学長補佐(男女共同参画担当)	山名 裕子
学長補佐(地域協働担当)	臼木 智昭

## 経営協議会

学長	山本 文雄
理事(総括・総務・人事・情報担当)	真鍋 雅文
理事(財務・施設・環境担当)	堀江 直純
理事(研究・地方創生・広報担当)	尾野 恭一
理事(経営分析担当)	工藤 孝徳
医学部附属病院長	南谷 佳弘
副学長(評価・IR・新学部設置担当)	長縄 明大
秋田魁新報社代表取締役社長	佐川 博之
秋田県医師会顧問	小山田 雅
新国立劇場運営財団理事長	銭谷 眞美
秋田銀行取締役頭取(代表取締役)	新谷 明弘
東北大学名誉教授	吉本 高志
秋田県知事	佐竹 敬久
青森中央学院大学長	佐藤 敬
そーせいグループ株式会社取締役	加賀 邦明

## 教育研究評議会

学長	山本 文雄
理事(総括・総務・人事・情報担当)	真鍋 雅文
理事(研究・地方創生・広報担当)	尾野 恭一
理事(教育・国際担当)	後藤 猛
理事(学生担当)	疋田 正喜
副学長(評価・IR・新学部設置担当)	長縄 明大
国際資源学研究科長	藤井 光
教育文化学部長	上田 晴彦
医学系研究科長	羽瀧 友則
理工学研究科長	寺境 光俊
先進ヘルスケア工学院院长	水戸部 一孝
附属図書館長	山本 浩史
医学部附属病院長	南谷 佳弘
産学連携推進機構長	景山 陽一
教育推進主管	宮本 律子
国際資源学研究科教授	安達 毅
国際資源学研究科教授	渡辺 寧
教育文化学部教授	宇野 力
教育文化学部教授	大橋 純一
医学系研究科教授	板東 良雄
医学系研究科教授	安藤 秀明
理工学研究科教授	奥山 栄樹
理工学研究科教授	熊谷 誠治

## 大学戦略室

室長	真鍋 雅文
----	-------

## 本部等

副理事(企画調整担当)	波形 寿英
副理事(財務・施設・環境担当)	田中 久志
監査室長	針金 誠悦
総務企画課長	佐々木 直樹
秘書課長	小川 輝芳

人事課長(兼)能力開発室長	小柳 智子
図書館・情報推進課長	利 勝利
地方創生・研究推進課長	加賀屋 聡一
広報課長	能登 竜一
総合学務課長	塚本 紀彦
国際課長	昌子 純子
学生支援・就職課長	工藤 奈緒美
入試課長	進藤 均
財務課長	高橋 尚之
経理・調達課長	井澤 郁美
施設企画課長	大山 直人
施設保全課長	櫻井 秀浩

## センター・機構等

産学連携推進機構長	景山 陽一
情報統括センター長	水戸部 一孝
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター長	海老原 敬
放射性同位元素センター長	齋藤 嘉一
環境安全センター長	加藤 純雄
国際資源学教育研究センター長	柴山 敦
地方創生センター長	尾野 恭一
高齢者医療先端研究センター長	大田 秀隆
電動化システム共同研究センター長	榊 純一
自殺予防総合研究センター長	尾野 恭一
地域防災減災総合研究センター長	尾野 恭一
感染統括制御・疫学・分子病態研究センター長	尾野 恭一
評価・IRセンター長	長縄 明大
高等教育グローバルセンター長	後藤 猛
学生支援総合センター長	疋田 正喜
高大接続センター長	疋田 正喜
教職課程・キャリア支援センター長	後藤 猛
保健管理センター所長	伏見 雅人
地(知)の拠点推進本部長	山本 文雄
教育推進主管	宮本 律子

## 附属図書館

館長	山本 浩史
医学部分館長	八月朔日 泰和

## 国際資源学研究科

研究科長	藤井 光
事務長	稲葉 倫子
附属鉱業博物館長	渡辺 寧

## 教育文化学部

学部長	上田 晴彦
事務長	川辺 朋矢
教職高度化センター長	鎌田 信
附属幼稚園長	山名 裕子
附属小学校長	佐藤 修司
附属中学校長	星 宏人
附属特別支援学校長	前原 和明

## 医学系研究科

研究科長	羽瀧 友則
附属病院長	南谷 佳弘
地域包括ケア・介護予防研修センター長	羽瀧 友則
事務部長	一條 敬一
総務課長	飯塚 博幸
企画管理課長	熊谷 文隆
調達課長	小林 一俊
学務課長	佐々木 繁男
医事課長	山形 知子

## 理工学研究科

研究科長	寺境 光俊
事務長	柳谷 勉
附属革新材料研究センター長	吉村 哲
附属クロスオーバー教育創成センター長	足立 高弘

# 学生の定員・現員

## 〈学部〉

令和5年5月1日現在

学部	学科・課程	入学定員	収容定員	現 員						計
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
国際資源学部	国際資源学科	120	480	138	134	117	127			516
	小 計	120	480	138	134	117	127			516
教育文化学部	学校教育課程	110	440	114	116	129	109			468
	地域文化学科	100	400	104	102	112	102			420
	小 計	210	840	218	218	241	211			888
医学部	医学科	(5)124	769	132	126	141	121	133	128	781
	保健学科	(14)106	452	109	113	110	100			432
	小 計	(5) (14)230	1,221	241	239	251	221	133	128	1,213
理工学部	生命科学科	45	180	50	45	44	45			184
	物質科学科	110	440	124	112	112	111			459
	数理・電気電子情報学科	120	480	133	127	142	128			530
	システムデザイン工学科	120	480	133	136	145	120			534
	各学科共通	12	24							
	小 計	(12)395	1,604	440	420	443	404			1,707
合 計	(5) (26)955	4,145	1,037	1,011	1,052	963	133	128	4,324	

※( )内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。 ※( )内の数は2年次編入学定員を表し、外数である。

## 〈大学院〉

令和5年5月1日現在

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員			計
				博士前期課程		博士後期課程	
国際資源学 研究科	資源地球科学専攻	17	34	1年次	2年次		
				25	20		
				33	31		
	小 計	40	80	58	51		109
資源学専攻	10	30	博士後期課程			計	
			1年次	2年次	3年次		
			20	19	9	48	
計		50	110				157

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員		計
				1年次	2年次	
教育学研究科	教職実践専攻	20	40	23	5	28
	専 攻	6	12	現 員		計
	心理教育実践専攻			1年次	2年次	
			5	9	14	
計		26	52			42

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員		計	
				1年次	2年次		
医学系研究科	医科学専攻	[3]5	[6]10	3	2	5	
	専 攻	12	24	博士前期課程		計	
	保健学専攻			1年次	2年次		
				11	16	27	
	専 攻	3	9	博士後期課程			計
	保健学専攻			1年次	2年次	3年次	
			4	4	5	13	
専 攻	30	120	博 士 課 程				計
医学専攻			1年次	2年次	3年次	4年次	
			30	32	35	87	184
計	[3]50	[6]163					229

※【】内の数は、医学系研究科修士課程医科学専攻及び理工学研究科博士前期課程システムデザイン工学専攻の内数である。

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員		計
				1年次	2年次	
理工学研究科	生命科学専攻	15	30	21	22	43
	物質科学専攻	40	80	41	51	92
	数理・電気電子情報学専攻	45	90	48	66	114
	システムデザイン工学専攻	[7]32	[14]64	37	36	73
	共同サステナブルデザイン工学専攻	18	36	25	31	56
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻				3	3
	小 計	[7]150	[14]300	172	209	381
専 攻	10	30	博士後期課程			計
総合理工学専攻			1年次	2年次	3年次	
			7	13	22	42
計	[7]160	[14]330				423

※【】内の数は、医学系研究科修士課程医科学専攻及び理工学研究科博士前期課程システムデザイン工学専攻の内数である。

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員		計
				1年次	2年次	
先進ヘルスケア工学院		[10]	[20]	10	10	20
計		[10]	[20]			20

※【】内の数は、医学系研究科修士課程医科学専攻及び理工学研究科博士前期課程システムデザイン工学専攻の内数である。

研究科	専 攻	入学定員	収容定員	現 員			計
				博士前期課程		博士後期課程	
工学資源学 研究科	地球資源学専攻	※2					
	環境物質工学専攻	※1					
	環境応用化学専攻						
	生命科学専攻						
	材料工学専攻						
	情報工学専攻						
	機械工学専攻						
	電気電子工学専攻						
	土木環境工学専攻						
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻						
小 計	※2						
専 攻	※2		博士後期課程			計	
資源学専攻			1年次	2年次	3年次		
生命科学専攻							
機能物質工学専攻							
生産・建設工学専攻							
電気電子情報システム工学専攻				1	1		
小 計				1	1		
計						1	
合 計		[10]286	[20]655				872

※【】内の数は、医学系研究科修士課程医科学専攻及び理工学研究科博士前期課程システムデザイン工学専攻の内数である。

# 入学志願者・入学状況

# 出身高校所在地別在学状況

## 〈学部〉

令和5年度

区分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
国際資源学部	120	228	124	352	80	37	117	2.93
教育文化学部	210	306	412	718	86	130	216	3.42
医学部	230	613	580	1,193	99	133	232	5.19
理工学部	395	1,347	245	1,592	336	70	406	4.03

※外国人留学生を含まない(ただし、国際資源学部と理工学部の私費外国人留学生は含む)。  
この他、国費外国人留学生(国際資源学部)4名、マレーシア政府派遣留学生(理工学部)4名。編入生を含まない。

## 〈大学院〉

令和5年度

区分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
国際資源学研究科(博士前期課程)	40	36	19	55	32	16	48	1.38
国際資源学研究科(博士後期課程)	10	8	6	14	6	6	12	1.40
教育学研究科(専門職学位課程)	20	18	7	25	16	7	23	1.25
教育学研究科(修士課程)	6	3	8	11	1	4	5	1.83
(修士課程) 医科学専攻	5 <sup>*</sup> [3]	2	1	3	2	1	3	1.50
(博士前期課程) 保健学専攻	12	8	6	14	5	6	11	1.17
(博士後期課程) 保健学専攻	3	5	2	7	2	2	4	2.33
(博士課程) 医学専攻	30	17	13	30	17	13	30	1.00
理工学研究科(博士前期課程)	150 <sup>*</sup> [7]	182	33	215	142	26	168	1.50
理工学研究科(博士後期課程)	10	6	1	7	6	1	7	0.70
先進ヘルスケア工学院(修士課程)	*[10]	10	1	11	9	1	10	1.10

※国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く(ただし、国際資源学研究科において、国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を含む)。  
※先進ヘルスケアの定員10名:3名は医学系研究科医科学専攻5名の内数、7名は理工学研究科博士前期課程150名の内数

## 〈学生総数(学部学生)〉

令和5年5月1日現在

	人数	%	
北海道	93	2.2%	
東北 2,491 (60.2%)	青森	163	3.9%
	岩手	276	6.7%
	秋田	1,627	39.3%
	宮城	204	4.9%
	山形	151	3.6%
	福島	70	1.7%
関東	818	19.8%	
中部	547	13.2%	
近畿	120	2.9%	
中国	16	0.4%	
四国	19	0.5%	
九州	35	0.8%	
学生総数	4,139		

※学生総数は、国内の高校出身者の合計であり、留学生及び編入学生等は含まない。

## 〈医学部〉

令和5年5月1日現在

	人数	%	
北海道	31	2.6%	
東北 640 (53.9%)	青森	32	2.7%
	岩手	79	6.7%
	秋田	428	36.1%
	宮城	69	5.8%
	山形	27	2.3%
	福島	5	0.4%
関東	338	28.5%	
中部	130	11.0%	
近畿	30	2.5%	
中国	6	0.5%	
四国	3	0.3%	
九州	9	0.8%	
計	1,187		

## 〈国際資源学部〉

令和5年5月1日現在

	人数	%	
北海道	20	4.0%	
東北 235 (46.6%)	青森	20	4.0%
	岩手	40	7.9%
	秋田	113	22.4%
	宮城	31	6.2%
	山形	13	2.6%
	福島	18	3.6%
関東	116	23.0%	
中部	79	15.7%	
近畿	33	6.5%	
中国	2	0.4%	
四国	6	1.2%	
九州	13	2.6%	
計	504		

## 〈理工学部〉

令和5年5月1日現在

	人数	%	
北海道	30	1.9%	
東北 878 (55.6%)	青森	70	4.4%
	岩手	113	7.2%
	秋田	538	34.1%
	宮城	66	4.2%
	山形	58	3.7%
	福島	33	2.1%
関東	305	19.3%	
中部	291	18.4%	
近畿	50	3.2%	
中国	6	0.4%	
四国	10	0.6%	
九州	10	0.6%	
計	1,580		

## 〈教育文化学部〉

令和5年5月1日現在

	人数	%	
北海道	12	1.4%	
東北 738 (85.0%)	青森	41	4.7%
	岩手	44	5.1%
	秋田	548	63.1%
	宮城	38	4.4%
	山形	53	6.1%
	福島	14	1.6%
関東	59	6.8%	
中部	47	5.4%	
近畿	7	0.8%	
中国	2	0.2%	
四国	0	0.0%	
九州	3	0.3%	
計	868		

# 卒業生・修了者数

## 〈学部・大学院・専攻科〉

学部			大学院			専攻科	
区分	4年度	累計	区分	4年度	累計	区分	累計
国際資源学部	114	655	国際資源学研究所 (博士前期課程)	42	221		
			国際資源学研究所 (博士後期課程)	9	41		
教育文化学部	211	6,053	教育学研究所 (修士課程)	5	912	教育専攻科	78
教育学部		14,519	教育学研究所 (専門職学位課程)	17	125	特殊教育特別専攻科	212
医学部	232	6,734	医学系研究所 (修士課程)	2	68		
			医学系研究所 (博士前期課程)	12	153		
			医学系研究所 (博士後期課程)	3	42		
			医学系研究所 (博士課程)	22	302		
			医学研究科		791		
理工学部	399	2,388	理工学研究科 (博士前期課程)	114	862		
			理工学研究科 (博士後期課程)	4	27		
工学資源学部		7,476	工学資源学研究所 (博士前期課程)		2,022		
			工学資源学研究所 (博士後期課程)	1	151		
鉱山学部		14,522	鉱山学研究所 (修士課程)		1,270	鉱山学専攻科	58
			鉱山学研究所 (博士前期課程)		1,012		
			鉱山学研究所 (博士後期課程)		123		
			先進ヘルスケア工学院	5	5		
計	956	52,347	計	266	8,127	計	348

〔注〕※鉱山学専攻科…昭和40年3月廃止 ※教育専攻科…平成元年3月廃止 ※鉱山学研究所(修士課程)…平成9年3月廃止  
 ※教育学部…平成10年4月教育文化学部に改組・改称 ※鉱山学部…平成10年4月工学資源学部に改組・改称  
 ※鉱山学研究所…平成14年4月工学資源学研究所に改組・改称 ※特殊教育特別専攻科…平成20年3月廃止  
 ※医学系研究所…平成19年4月医学系研究所に改組・改称 ※工学資源学部…平成26年4月理工学部に改組・改称  
 ※工学資源学研究所…平成28年4月理工学研究科に改組・改称 ※先進ヘルスケア工学院…令和3年4月新設

## 〈医療技術短期大学部〉

区分	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
累計	1,015	246	254

〔注〕※医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

# 学位授与数

令和5年5月1日現在

区分		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	累計		
国際資源学研究所	修士(資源学)				4	8	4	3	4	8	31		
	修士(理学)				8	12	17	11	14	16	78		
	修士(工学)				12	14	33	17	18	18	112		
	博士(資源学)						1	3	3	0	7		
	博士(理学)						6	4	3	6	19		
	博士(工学)						3	1	3	5	16		
	小計				24	37	62	41	47	52	263		
教育学研究所	修士(教育学)	24	31	28	7	4	4	5	3	5	912		
	教職修士(専門職)			4	24	20	27	12	21	17	125		
	小計	24	31	32	31	24	31	17	24	22	1,037		
医学系研究所	修士(医科学)	0	3	1	2	1	2	0	0	2	31		
	修士(看護学)	6	4	7	4	7	5	2	10	7	93		
	修士(リハビリテーション科学)	8	7	4	7	5	4	6	11	5	97		
	博士(保健学)(課程)	4	3	5	3	4	4	2	4	3	42		
	博士(医学)(課程)	25	23	27	35	28	20	20	25	22	304		
	博士(医学)(論文)	3	4	0	2	4	3	5	2	0	43		
小計	46	44	44	53	49	38	35	52	39	610			
医学研究科	博士(医学)(課程)										806		
	博士(医学)(論文)										574		
	小計										1,380		
理工学研究科	修士(理学)			1	9	20	21	28	40	33	152		
	修士(理工学)				26	29	35	38	36	35	199		
	修士(工学)				86	88	78	95	88	76	511		
	博士(理学)				1	0	2	2	2	0	7		
	博士(理工学)						3	1	2	3	9		
	博士(工学)						1	4	1	4	11		
	小計			1	122	138	143	165	172	148	889		
工学資源学研究所	修士(工学)	101	145	136	6	1					1,927		
	修士(資源学)	6	6	14	1						48		
	修士(理学)	13	11	15							47		
	博士(工学)(課程)	8	7	9	9	8	1	0	0	1	139		
	博士(資源学)(課程)	1	0	2	1	3					9		
	博士(理学)(課程)		1	2							3		
	博士(工学)(論文)	0	1	0	1						12		
	博士(資源学)(論文)	0	0	0							1		
	博士(理学)(論文)		0	0							0		
小計	129	171	178	18	12	1	0	0	1	2,186			
鉱山学研究所	修士(工学)										2,252		
	修士(資源学)										30		
	博士(工学)(課程)										117		
	博士(資源学)(課程)										6		
	博士(工学)(論文)										31		
小計										2,436			
先進ヘルスケア工学院	修士(工学)										5		
	小計										5		
合計				199	246	255	248	260	275	258	295	267	8,806



# 令和4年度学生表彰等受賞者

## 学生表彰被表彰者一覧<学術研究活動関係>

賞	氏名	所属	業績内容	指導教員
優秀賞	清宮美貴	医学部医学科 6年次	・2022年4月16日開催の「医学生・研修医の日本内科学会とはじめ 2022京都」において、「リンチ症候群家系から新規に見つかったMSH2の病的バリエーション (MSH2 c.1808A>T (Asp603Val)) に対する免疫チェックポイント阻害剤の効果」により、ポスター・口頭発表を行った。 ・筆頭著者として症例をまとめ、「Lymph-node metastasis from gastric adenocarcinoma in a patient bearing a germ line missense variant MSH2 c.1808A > T (Asp603Val) responds to the immune checkpoint inhibitor pembrolizumab」として、学術誌『Japanese Journal of Clinical Oncology (IF=2.925)』に掲載された。	柴田 浩行
優秀賞	毛内悠絵	医学部医学科 6年次	・2022年4月16日開催の「医学生・研修医の日本内科学会とはじめ 2022京都」において、「免疫チェックポイント阻害剤に対する応答性が転移巣によって異なるヘテロな反応を示した肺動脈血管内膜肉腫の一例」により、ポスター・口頭発表を行い、「優秀演題賞」を受賞した。 ・筆頭著者として上記内容をまとめ、「Pulmonary artery intimal sarcoma in a patient with Lynch syndrome: Response to an immune-check point inhibitor」として学術誌『Case Reports in Oncology (IF=1.143)』にアクセプトされた。	柴田 浩行
優秀賞	宮原潤	医学部医学科 6年次	・2022年10月20日(木)開催の第60回日本癌治療学会のEポスター Q23 NET・希少がん 2において、「AYA世代女性に発症した稀なEBウイルス関連平滑筋肉腫のゲノム解析と臨床経過」として、口頭発表した。 ・筆頭著者として症例をまとめ、「Clinical course of a rare Epstein-Barr virus-associated smooth muscle tumor and its genome analysis」として、学術誌『Case Reports in Oncology (IF=1.143)』にアクセプトされた。	柴田 浩行
優秀賞	鈴木智也	医学部医学科 6年次	・医学部2年生時より衛生学公衆衛生学講座に自主的に勉強に訪れ、下記2本の原書論文を執筆し、それぞれ学術誌にアクセプトされた。 ①「HPV vaccine intention among university students during suspension of active recommendation in Japan」 掲載学術誌『Human Vaccines and Immunotherapeutics』(インパクトファクター: 4.6) ②「Relationship between child care exhaustion and breastfeeding type at two and six months in a cohort of 1,210 Japanese mothers」 掲載学術誌『Nutrients』(インパクトファクター: 6.7)	野村 恭子
優秀賞	太田友	医学部医学科 5年次	・医学部2年生時より衛生学公衆衛生学講座に自主的に勉強に訪れ、下記2本の原書論文を執筆し、それぞれ学術誌にアクセプトされた。 ①「Influence of LINE-Assisted Provision of Information about Human Papillomavirus and Cervical Cancer Prevention on HPV Vaccine Intention: A Randomized Controlled Trial」 掲載学術誌『Vaccines』(インパクトファクター: 4.9) ②「Relationship between somatic symptoms with menstruation and intention to leave work among university hospital nurses in Japan: A cross-sectional study」 掲載学術誌『International Archives of Occupational and Environmental Health』(インパクトファクター: 2.8) ・2022年8月27、28日開催の「第50回日本女性心身医学会学術集会 学生研修医セッション」において、「SNSによる情報提供は郵送による情報提供と比較してHPVワクチン接種意欲を向上するか: ランダム化比較試験を用いた検討」として口頭発表を行い、優秀演題賞を受賞した。	野村 恭子
奨励賞	高木いさん	医学部医学科 6年次	・症例報告「卵巣成熟嚢胞性奇形腫破裂による汎発性腹膜炎で死亡した1剖検例」を学術誌『法医学の実際と研究』に投稿し、アクセプトされた。	美作宗太郎
奨励賞	福田琴音	医学部医学科 6年次	・症例報告「仏壇のろうそくによる焼死の1例」を学術誌『法医学の実際と研究』に投稿し、アクセプトされた。	美作宗太郎
奨励賞	船木雅子	医学部医学科 4年次	・「三角筋の筋肉注射推奨部位における静脈の走行に関する検討」というテーマで研究活動に従事し、第127回 日本解剖学会総会全国学術集会の学生セッションにてその成果の発表を行い、内眼解剖学研究として高く評価され、内眼解剖学トラベルアワード(献体協会賞)ならびに学生セッション優秀発表賞をダブル受賞した。	板東 良雄
奨励賞	江澤理徳	理工学部研究科 1年次	・2022年10月開催の第74回日本生物工学会において、「中性子結晶構造に基づく小分子阻害剤によるマクロファージ遊走阻止因子の阻害機構の解明」としてポスター発表を行い、生物工学学生優秀賞(飛翔賞)を受賞した。また、その業績を受け、同年12月開催の日本生物工学会2022年北日本支部シンポジウムにおいて、招待講演を行った。 ・2022年10月開催の令和4年度DOWA大学院生研究交流発表会において、「中性子線を利用した結晶構造解析によるマクロファージ遊走阻止因子の炎症反応活性化機構の解明」としてポスター発表を行い、最優秀賞を受賞した。 ・令和5年度より日本学術振興会特別研究員(DC2)として採用された。	松村 洋寿

## 学生表彰被表彰者一覧<課外活動関係>

賞	氏名/団体名	所属	種目/成績	大会名	所属団体	顧問教員
奨励賞(団体)	柔道部		柔道	優勝	2022年度東北学生柔道体重別団体優勝大会	三戸 範之
奨励賞(個人)	高橋大翔	教育文化学部 学校教育課程 4年次	81kg級	優勝	2022年度東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部 三戸 範之
奨励賞(個人)	牟田麗人	理工学部数 理・電気電子 情報学科 2年次	66kg級	優勝	2022年度東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部 三戸 範之
奨励賞(個人)	松本英紳	医学部医学科 3年次	男子棒高跳	優勝	第44回北日本学生陸上競技対校選手権大会	陸上競技部 松下 翔一
奨励賞(個人)	堀内 壘	教育文化学部 学校教育課程 2年次	男子800m	優勝	第49回東北総合体育大会陸上競技兼第53回東北陸上競技選手権大会兼第107回日本陸上競技選手権大会東北地区予選会	陸上競技部 松下 翔一
奨励賞(個人)	伊藤夕緋	国際資源学部 国際資源学科 3年次	83kg級	優勝	第86回東北学生パワーリフティング選手権大会	筋トレサークル 芳賀 一寿
奨励賞(個人)	松岡直志	医学部医学科 4年次	ピアノコース	最優秀賞	令和4年度第31回東北青少年音楽コンクール本選会	— —

# 外国人留学生数

国名	学部										大学院										合計		合計	
	国際資源学部		教育文化学部		医学部		理工学部		小計		国際資源学研究科		教育学研究科		医学系研究科		理工学研究科		小計		合計			
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規		
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費		
インド										1									1					1
ミャンマー										1										1				1
タイ	1	1								1								1						6
マレーシア	19	2							2	14								1						20
インドネシア	5			4					1															22
フィリピン																	5							9
韓国	12				2	2				8														12
モンゴル	6	3						2		5								1						10
ベトナム	23				1					20														24
中国	60	5			6	11		1		36						1								94
ラオス																								1
台湾	4				1				1	2														4
トルコ																								1
シリア																								1
イスラエル	1				1																			1
アフガニスタン																								4
エジプト																								1
アルジェリア																								1
マダガスカル																								2
ケニア																								1
タンザニア																								3
ナイジェリア																								1
ガーナ																								1
モロッコ																								1
エチオピア																								1
ジンバブエ																								1
ベナン																								1
マラウイ																								1
ナミビア																								1
ボツワナ																								6
ジブチ																								1
バブアニューギニア																								4
フィジー																								1
アメリカ	1				1																			2
セントルシア																								1
ドイツ	1																							2
ルーマニア	1				1																			1
ウクライナ	8																							9
ウズベキスタン																								3
カザフスタン																								2
タジキスタン																								4
計	142	4	7		5	8	3			80	8	8	96	3	35	121	19	53			1			263

※( )内は、女子学生数(内数) ※「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示し、大学推薦・大使館推薦・国内採用を含む。  
 ※「非正規」とは、日研究生・教研究生・交換留学生(特別聴講学生/特別研究学生)・科目等履修生・研究生を指す。 ※「私費」には、政府派遣留学生(マレーシア)を含む。  
 ※ウクライナからの避難学生は在留資格「特定活動」

# 外国人研究員等

〈外国人研究員数〉  
令和4年度受入実績なし

〈非常勤研究員数〉  
令和4年度受入実績

部局名	国・地域	人数
地方創生センター	モンゴル	1
	イタリア	1
	タイ	1
	ボツワナ	1
	モザンビーク	1

〈外国人客員研究員数〉  
令和4年度受入実績

部局名	国・地域	人数
国際資源学研究科	タイ	2
	フィリピン	1
	モンゴル	1
	インドネシア	1

# 国際交流協定校

## 〈大学間協定(35カ国・地域73大学)〉

令和5年5月1日現在

国・地域名	大学名	締結年月日	
インド	インド工科大学マドラス校	2014年 3月 2日	
	ペーロール工科大学	2015年 6月12日	
インドネシア	バンドン工科大学	2012年 7月12日	
	トリサクティ大学	2014年 6月10日	
	ガジャマダ大学	2015年 6月 8日	
	ブルタミナ大学	2018年 8月16日	
	バジャジャラン大学	2019年 3月26日	
韓国	国立ハンバット大学校	2001年 6月 8日	
	圓光大学校	2007年10月12日	
タイ	国立江原大学校	2008年 3月24日	
	チュロンコン大学	2012年11月28日	
台湾	スラナリー工科大学	2015年 8月17日	
	チェンマイ大学	2015年12月10日	
	龍華科技大學	2005年 7月15日	
アジア	国立台湾大学	2019年 3月 7日	
	国立彰化師範大学	2020年 1月22日	
	国立成功大学	2023年 2月20日	
	長榮大学	2023年 3月 3日	
	黒龍江大学	1988年10月19日	
	中南大学	2004年 8月24日	
	遼寧工程技術大学	2005年 4月20日	
	大連民族大学	2005年 6月27日	
	蘭州大学	2005年 8月 1日	
	吉林大学	2007年 2月 6日	
	東北大学	2007年 8月 9日	
	東華大学	2009年12月 3日	
	華中科技大学同済医学院	2010年 3月24日	
	長安大学	2010年11月18日	
北華大学	2012年11月20日		
嘉興学院	2014年11月12日		
西北師範大学	2019年12月12日		
フィリピン	フィリピン大学デリマン校	2012年 9月24日	
	フィリピン大学マニラ校	2013年 2月 4日	
	フィリピン大学ロスバニョス校	2020年10月 9日	
ベトナム	ハノイ工科大学	2008年12月 2日	
	ハノイ交通・通信大学	2008年12月 3日	
マレーシア	マラヤ大学	2013年11月20日	
ミャンマー	ヤンゴン大学	2014年 9月19日	
モンゴル	モンゴル科学技術大学	2009年10月22日	
	モンゴル国立教育大学	2010年 7月23日	
	新モンゴル学園	2016年 1月25日	
アフリカ	ケニア	ケニヤッタ大学	2010年 3月 2日
	ボツワナ	ボツワナ国際科学技術大学	2009年10月23日
		ボツワナ大学	2011年 3月31日
	モザンビーク	エドゥアルド・モンドラーネ大学	2014年 1月12日
		テテ工科大学	2017年 3月23日
オセアニア	オーストラリア	グリフィス大学	1994年 6月29日
		カーティン大学	2013年 8月 1日
北米	アメリカ	セント・クラウド州立大学	1996年 7月24日
		グアム大学	2021年 7月14日
カナダ	ニューファンドランドメモリアル大学	2013年 6月17日	
中南米	チリ	サンチアゴ大学	2013年11月21日
中東	イスラエル	ハイファ大学	2010年 9月24日
	アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦大学	2018年11月 6日
ヨーロッパ(NIS諸国を含む)	イタリア	カリアリ大学	2009年12月 9日
		フェラーラ大学	2014年 6月30日
	カザフスタン	東カザフスタン工科大学	2011年 6月 8日
		ナザルバエフ大学	2021年 5月11日
	キルギス	アサナリフ地質・鉱業・天然資源開発大学	2020年11月20日
	スウェーデン	ルレオ工科大学	2013年 5月 9日
	タジキスタン	タジキスタン鉱山冶金大学	2021年 3月12日
	ドイツ	フライベルク工科大学	2012年 7月 4日
		ラップランド応用科学大学	2009年10月23日
	フィンランド	カヤー二応用科学大学	2021年 3月24日
	ベラルーシ	ベラルーシ医科大学	2004年 7月26日
	ポーランド	クラクフ経済大学	2018年 9月12日
	ルーマニア	ブカレスト大学	2010年 9月28日
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	パニャルカ大学	2022年10月21日
	東サラエボ大学	2023年 2月22日	
ベルギー	ヴィエブス応用科学大学	2022年12月 7日	

## 〈部局間協定(22カ国・地域38学部等)〉

令和5年5月1日現在

部局名	国・地域名	大学・学部等名	協定締結年月日	
国際資源学研究科	アジア	インドネシア	ハサヌディン大学工学部	2014年 4月23日
			バジャジャラン大学地質工学部	2018年10月 1日
		ブンバグナン・ナショナル・ベテラン・ジョグジャカルタ大学 鉱物テクノロジー学部	2020年10月20日	
		タイ	カセサート大学理学部	2019年 5月29日
	アフリカ	スーダン	紅海大学地球科学部及び海洋漁業学部	2016年12月10日
	ヨーロッパ(NIS諸国を含む)	セルビア	ベオグラード大学工学部 ポール校	2017年 5月 3日
			ベオグラード大学化学技術製錬研究所	2020年 6月16日
		ポーランド	AGH科学技術大学	2018年10月 1日
		ウズベキスタン	日本青年技術革新センター(UJICY)	2020年11月 6日
		ウズベキスタン国立地質大学/日本青年技術革新センター(UJICY)	2021年12月14日	
		ナヴォイ鉱業大学	2021年12月22日	
		タジキスタン共和国科学アカデミー附属科学・新技術革新開発センター	2021年11月15日	
	北米	カナダ	ケベック大学州立科学研究所	2019年 9月18日
			アルバータ大学工学部	2022年 6月 2日
教育文化学部	アジア	韓国	大韓民国聖公会大学校韓国語学堂	2019年 1月28日
医学系研究科	アジア	中国	中国衛生部北京医院	1995年11月14日
			シンガポール国立大学看護学部	2016年 3月 7日
		タイ	スラナリー工科大学看護学部	2019年 5月10日
	ヨーロッパ	フランス	リール大学医学部	2011年 4月13日
		ベルギー	ヴィエブス応用科学大学看護学・作業療法学部	2022年12月 7日
	北米	アメリカ	ハワイ大学 ジョン・A・バーンス医学大学院	2016年 8月 4日
		テキサス大学 M.D.アンダーソンがんセンター	2017年 7月31日	
医学部附属病院	アジア	中国	蘭州大学附属第一病院	2014年 6月12日
理工学研究科	台湾	明新科技大学工学院	2010年 4月12日	
		清華大学精密機器与機械学系	2007年 3月 1日	
		清華大学化学系	2008年 1月17日	
	中国	同濟大学材料科学与工程学院	2010年 5月24日	
		同濟大学上海市金属功能材料開発 応用重点実験室	2010年 5月24日	
		インド	インド科学技術研究評議会附属・国立科学技術研究所	2016年 8月 5日
		マレーシア	マレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院	2021年 3月 9日
	タイ	泰日工業大学	2022年11月30日	
	アフリカ	チュニジア	スファックス大学工学部	2003年12月18日
	オセアニア	ニュージーランド	オークランド工科大学デザイン創造学部	2012年11月27日
	北米	アメリカ	モンタナ鉱物理工科大学	1982年 6月24日
ヨーロッパ	ハンガリー	デブレツェン大学情報学部	2019年 5月30日	
	スロバキア	コメニウス大学 数学・物理・情報学部	2019年 8月13日	
	英国	アストン大学工学物理学部	2022年 5月11日	
地方創生センター	アジア	中国	同濟大学上海市金属功能材料開発 応用重点実験室	2011年 9月 2日



## 〈令和4年度実施〉

講座名	内 容	開催時期	参加者数	担当の学部
生命科学への扉 —生命分子を探る、調べる、創る—	生命科学は、複雑な生命現象を分子から細胞、個体レベルで総合的に理解して、人々の生活や健康、産業に幅広く役立てていく学問分野です。本講座では、「生命に関わる分子を探る、調べる、創る」をキーワードにして、一般的な話から、最先端の科学の話題、特に疾患や創薬に関係する話を中心に生命科学の世界を学びます。	令和4年 7月9日(土) 7月16日(土)	46	理工学部
資源開発の最先端 —新たな生産技術から地球環境の保全まで—	金属資源およびエネルギー資源の開発は、最新の技術と世界状況によって、大きく変化しています。二酸化炭素の排出削減の目標やドローン技術の開発は、資源開発の現場にどんな影響を及ぼしているのでしょうか？ 地球環境への対策は十分でしょうか？ この講座では、資源開発を取り巻く今日的な諸問題について、詳しく解説します。	令和4年 7月19日(火) 7月20日(水) 7月21日(木)	35	国際資源学部
終活・人生会議について考えてみましょう	日本は、高齢社会・多死時代に直面しており、厚生労働省では、「人生会議」と題して人生の最終段階における看取りや医療介護の関わりを話し合うように平成30年から提案されています。医療介護福祉専門職に対する啓発活動は徐々に進んできており、一般市民への啓発も少なからず行われていますが、厚生労働省の調査では、未だ「人生会議」の実施は10%に満たない状況です。これは、人生会議でなにをどのように対処すれば良いのかの啓発が難しいからです。本講座では、一般市民にわかりやすく、実際の生活の中でどういったことを行えば良いのかということ、前編で解説講義を行い、後編で実践編として、「もしばなゲーム」を用いてグループワークを行います。	令和4年 8月27日(土)	11	医学部
コロナ時代の新・健康常識 ～コグニサイズで認知症予防&生活を支えるリハビリテーション～	Withコロナ時代を迎えて私たちの生活様式は大きく変わりました。この講座では「好きな活動に取り組む・孤立を防ぐ・生活リズムを保つ」という健康原則と、科学的エビデンスに基づいた講演と実演をおこないます。本講座の前半では、認知症とその予防について正しく理解するための知識と、日常生活で実践できるコグニサイズ（認知症予防運動プログラム）を実技形式でおこない、本学の「チームオレンジ☆」の活動紹介やチームが取り組んだ研究成果についてもお伝えします。本講座の後半では、心身機能と生活習慣の関係、認知症、および食べることに関する障害をテーマに、安心して生活するための生活の工夫や地域で利用できる医療介護サービス（認知症ケアパス）についてお伝えします。	令和4年 9月2日(金) 9月9日(金) 9月13日(火) 9月30日(金) 10月7日(金) 10月14日(金)	10	医学部
ストップ ザ 腰痛！ ～腰痛の原因と予防・対処法～	最新の国民生活基礎調査によると、自覚症状がある人の中で腰痛は男性で1位、女性で2位の症状であり、多くの人腰痛に悩まされていることが分かります。さらに、COVID-19感染対策で外出自粛することにより、身体を動かす機会が減少して腰痛を発症する、または、元々の腰痛が増悪する人が増えています。腰痛が発生すると痛みで身体を動かしにくくなり、よりいっそう運動をしなくなるという悪循環が生まれてしまいます。そこで、本講座では腰痛の原因や治療の解説、予防するための日常生活の工夫や効果的な運動について講義・実習を行います。	令和4年 9月15日(木)	29	医学部
生活の中の算数・数学	気温上昇がこの先も続いていくかを予測するために“数や式”、“関数”が活用されたり、スーパーやコンビニなどでよりよいサービスを提供するために“統計”が活用されていたりするなど、私たちの日常生活のあらゆる場面で算数や数学が活用されています。本講座では、日常生活で活用されている算数・数学について知り、それを活用して、ものごとを理解したり判断したりすることについて考えてみます。	令和4年 9月23日(金)	15	教育文化学部
糖尿病をもっと知ろう！	糖尿病患者は年々増加し、世界では成人の10人に1人が糖尿病に罹患しており、2021年の調査では、日本は世界で第9位の糖尿病大国です。糖尿病は初期には自覚症状が少ないため、気付かなければ神経や眼、腎臓などの合併症が進行しますが、早期から正しい知識を身につけ、良い生活習慣や進んだ治療を実践することで、糖尿病でない人と変わらない健康な生活を過ごせます。これからもどんどん増え続ける糖尿病のことを知り、今日からできる予防法をお伝えします。	令和4年 10月15日(土)	25	医学部
ベストの古今東西—芸術と歴史—	2020年に新型コロナウイルスが世界中で流行して以来、これまで人類が経験してきた感染症への関心が高まっています。このうち最もよく知られているベスト禍について、西欧と中国を中心に古今東西の人々が抱いた恐怖やその終息への願いについて、歴史・文学・美術の視点から皆さんと一緒に考えたいと思います。	令和4年 10月20日(木) 10月27日(木) 11月10日(木) 11月17日(木) 11月24日(木) 12月1日(木)	103	教育文化学部

講座名	内 容	開催時期	参加者数	担当の学部
地域防災減災総合研究センター公開講座 —秋田県における地震・火山災害と防災・減災について—	秋田大学地域防災減災総合研究センターは、近年増加傾向にある自然災害と複合災害に対し、感染症蔓延下での対応を含めた対策の検討のために、令和4年4月に設置されました。これを記念し、自然災害とその防災・減災に関する公開講座を実施します。 本学の教員が取り組んでいる研究成果を地域に還元し、普及啓発を図ることにより、県民の防災意識高揚に寄与します。	令和4年 11月2日(水) 11月9日(水) 11月16日(水) 11月30日(水) 12月7日(水)	25	秋田大学 地域防災 減災総合 研究セン ター 国際資源 学部 教育文化 学部
健診（検診）受けただけで安心していませんか？ ～結果を読み解き健康づくりに活かすためのヒント～	生活習慣病予防の一環として、健康診断を毎年受けていても検査データの見方が良く分からない方も多いと思います。この先も健康に生活するためには検査データをご自身で良く把握し、年代に合わせて生活習慣を見直していく必要があります。健診の意義やご自身の健診の結果を見ながら、データの読みとき方を解説し、食事や排せつ、運動など生活習慣の見直し方を解説します。本講座は、特定健診を受診する40代から60代を中心に対象としますが、もっと若い世代の方にもぜひ受講していただき、ご自身の健康管理に役立てていただければと思います。	令和4年 11月11日(金) 11月18日(金)	12	医学部

# 国内機関との連携・協力協定

## 〈大学間協定〉

令和5年5月1日現在

	協定締結日	締結先	協定の形態等	備考
自治体	平成18年 9月25日	秋田県	連携協定	
	平成20年 7月11日	秋田市	//	
	平成20年10月24日	大館市	//	
	平成20年11月 5日	小坂町	//	
	平成20年11月17日	能代市	//	
	平成21年 2月 7日	横手市	//	
	平成21年10月 6日	北秋田市	//	
	平成22年 5月26日	大仙市	//	
	平成22年12月10日	八峰町	//	
	平成23年 2月17日	男鹿市	//	
	平成23年 5月13日	美郷町	//	
	平成24年 2月17日	湯上市	//	
	平成24年11月20日	湯沢市	//	
	平成26年 9月26日	東成瀬村	//	
	平成26年11月26日	仙北市	//	
	平成30年10月25日	にかほ市	//	
大 学	平成10年 3月23日	放送大学	単位互換に関する協定	
	平成14年 3月27日	秋田県内3大学	//	
	平成14年 5月22日	北東北国立3大学	//	
	平成15年10月 9日	秋田県内高等教育機関	//	平成22年4月1日から 12高等教育機関へ拡大
	平成19年12月25日	群馬大学	グローバルCOEプログラム 「生態調節シグナルの統合的研究」	
	平成20年 7月22日	秋田県立大学	連携協力協定	
	平成21年 3月24日	秋田県立大学、国際教養大学	//	平成26年4月1日から秋田公立美術大学を加えて秋田県内4大学へ拡大
	平成24年10月 3日	東北公益文科大学	//	
平成25年 1月31日	東京大学生産技術研究所	//		
令和 5年 3月28日	島根大学	包括的連携協定		

	協定締結日	締結先	協定の形態等	備考
その他 企業等	平成15年12月24日	秋田県立脳血管研究センター	連携大学院協定	
	平成17年 3月17日	秋田大学生活協同組合	福利厚生事業に関する協定	
	平成18年 7月19日	(株)秋田銀行	連携協力協定	
	平成18年10月24日	(株)北都銀行	//	
	平成18年12月 6日	商工組合中央金庫秋田支店	産学連携協力推進協定	
	平成19年 3月 6日	(株)日本政策金融公庫 秋田支店	//	中小企業金融公庫から 平成20年10月1日に改称
	平成19年 7月24日	DOWAホールディングス(株)	包括的連携協定	
	平成20年 3月21日	(国研)宇宙航空研究開発機構	宇宙教育活動に関する協力協定	
	平成20年 9月11日	(株)わらび座	連携協力協定	
	平成23年 4月13日	(独)石油天然ガス・金属鉱物 資源機構	資源分野における包括協定	
	平成23年11月29日	美郷町商工会	産学連携に関する覚書	
	平成24年 1月20日	大仙市商工会	//	
	平成25年11月19日	(独)国際協力機構(JICA)	資源分野の戦略的連携合意書	
	平成26年 9月24日	(株)北都銀行	新戦略連携協定	
	平成28年 7月14日	北東北国立3大学、 秋田銀行、岩手銀行、青森銀行	知的財産の活用に関する協定 「ネットビックスプラス」	
	平成29年 3月29日	東京工業大学、(一社)秋田県医師会	連携協定	
	平成29年 4月11日	(株)秋田魁新報社	包括的連携協力協定	
	令和元年10月10日	秋田県立秋田北高等学校	高大連携協定	
	令和 2年 5月15日	NEXCO東日本東北支社	産学連携推進協定	
	令和 3年 3月 4日	イオン(株)	包括的連携協定	
令和 3年 5月13日	三菱商事エナジーソリューションズ(株)、 (株)ウェンティ・ジャパン、(株)北都銀行	風力発電分野における産学金連 携に関する協定		
令和 4年 5月27日	三井物産(株)、大阪瓦斯(株)、 Northland Power International Holdings B.V.、ユナイテッド計画(株)	洋上風力発電を主とした再生可 能エネルギー分野における産学 連携に関する協定		
令和 4年10月13日	イオンタウン(株)	秋田市外旭川地区まちづくり事 業の連携協力に関する協定		
令和 5年 1月30日	日本風力開発(株)、日本オフショアウ インドサービス(株)	洋上風力発電を主とした再生可 能エネルギー分野における産学 連携に関する協定		
令和 5年 3月17日	ジャパン・リニューアブル・エナジー (株)、ENEOS(株)、東北電力(株)、(株) 秋田銀行	再生可能エネルギー産業の発展 と地方創生に関する連携協定		

### 〈部局間協定〉

令和5年5月1日現在

部局名	協定締結日	締結先	協定の形態等
国際資源学部	平成28年 4月 1日	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	学部間協定
国際資源学 研究科	平成26年11月 1日	高知大学海洋コア総合研究センター	学部間協定
	平成31年 4月22日	一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター	協力協定
教育文化 学部	平成19年 3月23日	秋田県秋田北高等学校	連携教育協定
	平成21年 3月26日	秋田県教育委員会	秋田県総合教育センター研修員の授業科目の履修に関する協定
	平成24年 8月 1日	秋田県教育委員会、秋田市教育委員会	連携協定
	平成30年 2月 8日	秋田刑務所	共同研究及び連携に関する協定
	平成30年10月 1日	秋田県中小企業家同友会	連携協定
理工学 研究科	平成17年12月13日	秋田工業高等専門学校	学部間協定
	平成18年11月21日	秋田県産業技術センター	//
	令和 2年 3月12日	秋田県、能代市	連携協定
	令和 4年 8月29日	長崎大学海洋未来イノベーション機 構、長崎大学総合生産科学域	洋上風力発電人材育成に関する連携・協力協定
地方創生 センター	令和 3年 3月25日	(株) JERA、電源開発(株)、Wind Power AS	人材育成及び研究の連携可能性検討に関する覚書
	令和 5年 1月30日	(株) JERA、電源開発(株)、伊藤忠 商事(株)	人材育成及び研究の連携可能性検討に関する覚書

# 役員数

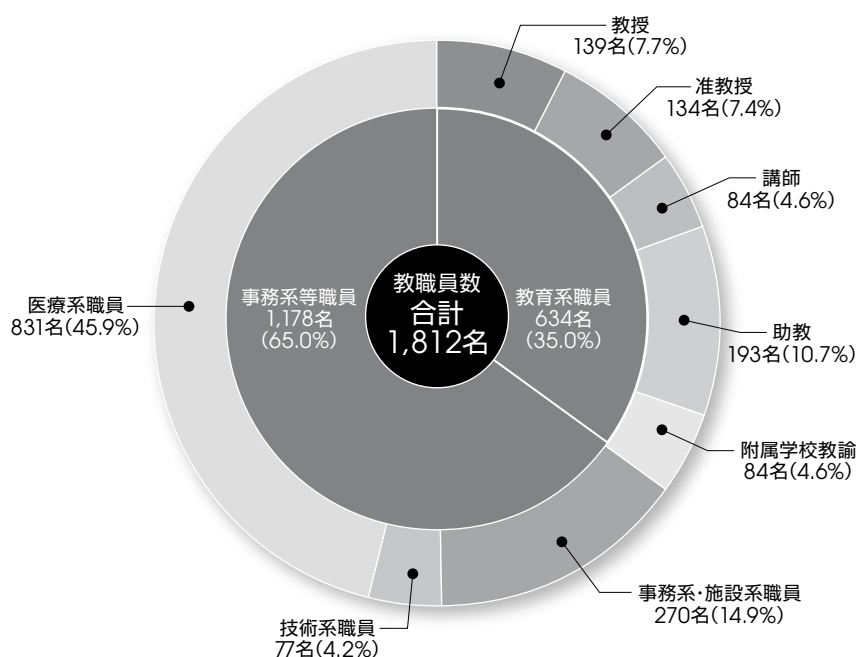
令和5年5月1日現在

区分	学長	理事	監事	計
学長	1			1
理事		6 (1)		6 (1)
監事			2 (1)	2 (1)
計	1	6 (1)	2 (1)	9 (2)

※( )内の数は非常勤で内数

# 教職員数

令和5年5月1日現在



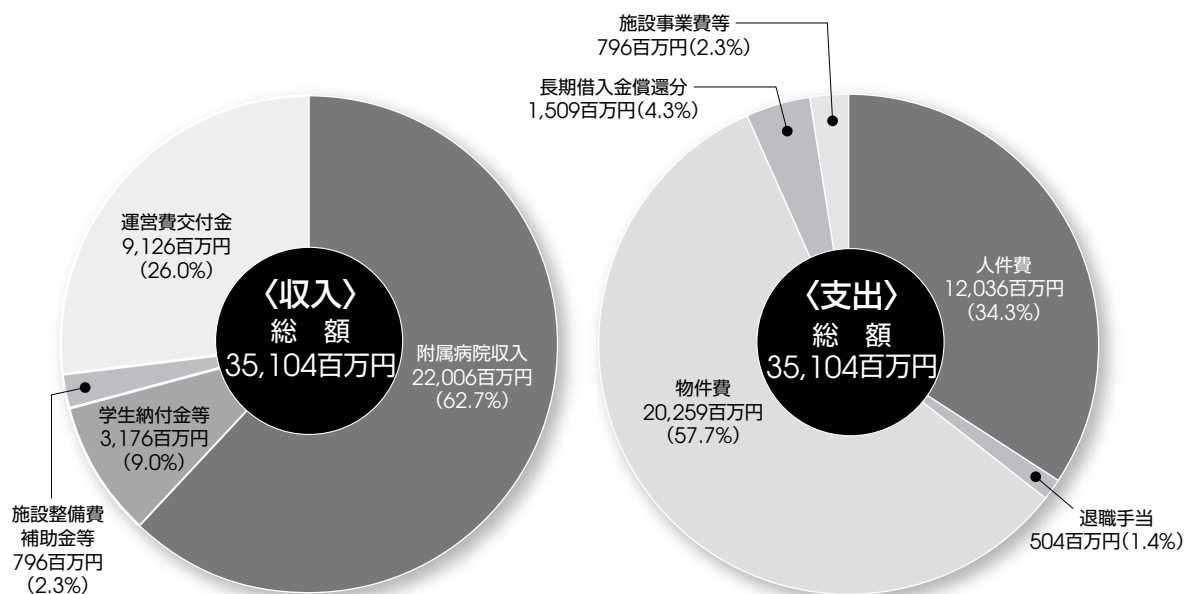
※教育系職員には特任教員を含め、寄附講座等教員を除く。

## 職別・男女別

令和5年5月1日現在

区分	教授		准教授		講師		助教		附属学校教諭		事務系・施設系職員		技術系職員		医療系職員	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男	124	89.2	115	85.8	65	77.4	123	63.7	39	46.4	149	55.2	55	71.4	182	21.9
女	15	10.8	19	14.2	19	22.6	70	36.3	45	53.6	121	44.8	22	28.6	649	78.1
合計	139		134		84		193		84		270		77		831	

# 令和5年度予算



※金額は令和5年度予算額であり、上記収入及び支出には、産学連携等研究費及び寄附金に係る経費は含まない。

# 外部資金 受入状況

単位:千円

名称	平成29年度		平成30年度		平成31年度(令和元年度)		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
民間等との共同研究	84	90,666	82	87,869	107	111,282	103	127,930	98	159,827	110	194,068
受託研究	119	395,970	134	337,461	128	311,814	124	303,545	144	319,673	143	321,555
奨学寄附金	729	421,921	749	433,794	733	429,097	690	372,449	603	351,393	593	355,401
寄附講座・部門	3	151,000	3	148,000	2	85,000	2	85,000	2	85,000	3	43,000
合計	935	1,059,557	968	1,007,124	970	937,193	919	888,924	847	915,893	849	914,024

※受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金・みらい創造基金を含まない。

# 令和4年度科学研究費 助成事業採択状況

単位:千円 令和5年3月31日現在

研究種目	採択件数	交付金額		
		直接経費	間接経費	合計
基盤研究(A)	1	10,200	3,060	13,260
基盤研究(B)	27	109,500	32,850	142,350
基盤研究(C)	162	152,800	45,840	198,640
挑戦的研究(萌芽)	7	13,800	4,140	17,940
若手研究	60	51,500	15,450	66,950
国際共同研究強化(B)	2	8,900	2,670	11,570
研究活動スタート支援	10	10,300	3,090	13,390
合計	269	357,000	107,100	464,100
国際共同研究強化(A)	1	11,900	3,570	15,470
奨励研究	8	3,520	-	3,520

※金額は令和4年度交付内定額

# 土地・建物

令和5年5月1日現在

区 分		建物 延床面積(㎡)	土地(㎡)	
手形地区	国際資源学部	学 部	7,728	200,250
		附属鉱業博物館	3,864	
	教育文化学部	学 部	16,433	
		附属教職高度化センター	560	
	理工学部	学 部	31,395	
		附属革新材料研究センター	2,975	
		附属クロスオーバー教育創成センター	684	
	中央図書館	4,604		
	情報統括センター	1,003		
	地方創生センター 1号館(百周年記念館含む)	2,151		
	地方創生センター 2号館	2,878		
	放射性同位元素センター	338		
	保健管理センター	561		
	大学会館(クレール)	3,322		
	本部管理棟他	9,800		
	体育関係施設	3,827		
	課外活動施設	1,396		
小 計		93,519		
本道地区	医学部	学 部	33,294	168,219
		附属病院	72,807	
		附属病院シミュレーション教育センター	1,347	
	医学図書館	1,717		
	バイオサイエンス教育・研究サポートセンター	7,359		
	環境安全センター	366		
	本道会館	1,355		
	体育関係施設	1,079		
	課外活動施設	396		
	本道寮(女子)	1,317		
	職員宿舎(糠塚)・看護師宿舎	6,878		
	保育所	334		
小 計		128,249		
保戸野地区	教育文化学部附属幼稚園	1,212	68,807	
	教育文化学部附属小学校	7,680		
	教育文化学部附属中学校	7,628		
	教育文化学部附属特別支援学校	3,338		
	小 計	19,858		
その他	手形寮(女子)、西谷地寮(男子) 他	6,462	27,642	
	職員宿舎(休下町、城下町 他)	6,074		
	上記以外	710		
	小 計	13,246		
合 計		254,872	464,918	

# 各連絡先・所在地一覧

Telephone Number and Address

## 〈手形地区〉

名称	電話番号	所在地
総務企画課総務担当（総合案内）	018-889-2207	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
評価・IRセンター	018-889-2937	
附属図書館 中央図書館	018-889-2273	
保健管理センター	018-889-2286	
産学連携推進機構	018-889-2712	
情報統括センター	018-889-2499	
地方創生センター	018-889-3201	
地方創生センター 1号館	018-889-2680	
地方創生センター 2号館	018-889-3040	
国際資源学教育研究センター	018-889-2810	
放射性同位元素センター	018-889-3006	
電動化システム共同研究センター	018-889-3003	
地域防災減災総合研究センター	018-889-2844	
高等教育グローバルセンター	018-889-3191	
高大接続センター 高大接続教育部門	018-889-3045	
高大接続センター アドミッション部門・広報推進部門	018-889-2269	
教職課程・キャリア支援センター	018-889-3205	
学生支援総合センター	018-889-2265	
男女共同参画推進室	018-889-2260	
インフォメーションセンター	018-889-2931	
国際資源学研究科 総務担当	018-889-2214	〒010-8502 秋田市手形字大沢28-2
国際資源学研究科 附属鉱業博物館	018-889-2461	
教育文化学部 総務担当	018-889-2509	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
教育文化学部 附属教職高度化センター	018-889-2700	
理工学研究科 総務担当	018-889-2305	
理工学研究科 附属革新材料研究センター	018-889-2460	
理工学研究科 附属クロスオーバー教育創成センター	018-889-2806	



手形地区

## 〈本道地区〉

名称	電話番号	所在地
医学部（総合案内）	018-833-1166	〒010-8543 秋田市本道1-1-1
医学部 附属病院（総合案内）	018-834-1111	
医学部 附属病院	018-884-6427	
シミュレーション教育センター		
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 分子医学部門	018-884-6191	
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 動物実験部門	018-884-6193	
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 放射性同位元素部門	018-884-6196	
環境安全センター	018-884-6192	
高齢者医療先端研究センター	018-884-6085	
自殺予防総合センター	018-801-7173	
感染統括制御・疫学・分子病態研究センター	018-884-6008	
附属図書館 医学図書館	018-884-6052	



本道地区

## 〈保戸野地区〉

名称	電話番号	所在地
教育文化学部 附属幼稚園	018-862-2343	〒010-0904 秋田市保戸野原の町14-32
教育文化学部 附属小学校	018-862-2593	〒010-0904 秋田市保戸野原の町13-1
教育文化学部 附属中学校	018-862-3350	〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
教育文化学部 附属特別支援学校	018-862-8583	



保戸野地区

## 〈その他施設等〉

名称	電話番号	所在地
西谷地寮(男子)	—	〒010-0851 秋田市手形西谷地5-1
手形寮(女子)	—	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
本道寮(女子)	—	〒010-0825 秋田市柳田字糠塚100-3
国際交流会館	—	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
留学生会館	—	〒010-0041 秋田市広面字高田4
横手分校	0182-38-8304	〒013-0045 横手市南町13-1 横手市民会館内
北秋田分校	090-7063-6489	〒018-3312 北秋田市花園町19-1
男鹿なまはげ分校	0185-24-9126	〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
電動化システム共同研究センター 新世代モーター特性評価ラボ	018-853-0785	〒010-1224 秋田市雄和種沢字戸草沢209
放送大学秋田学習センター	018-831-1997	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

# 手形地区施設配置図

Tegata Campus Map





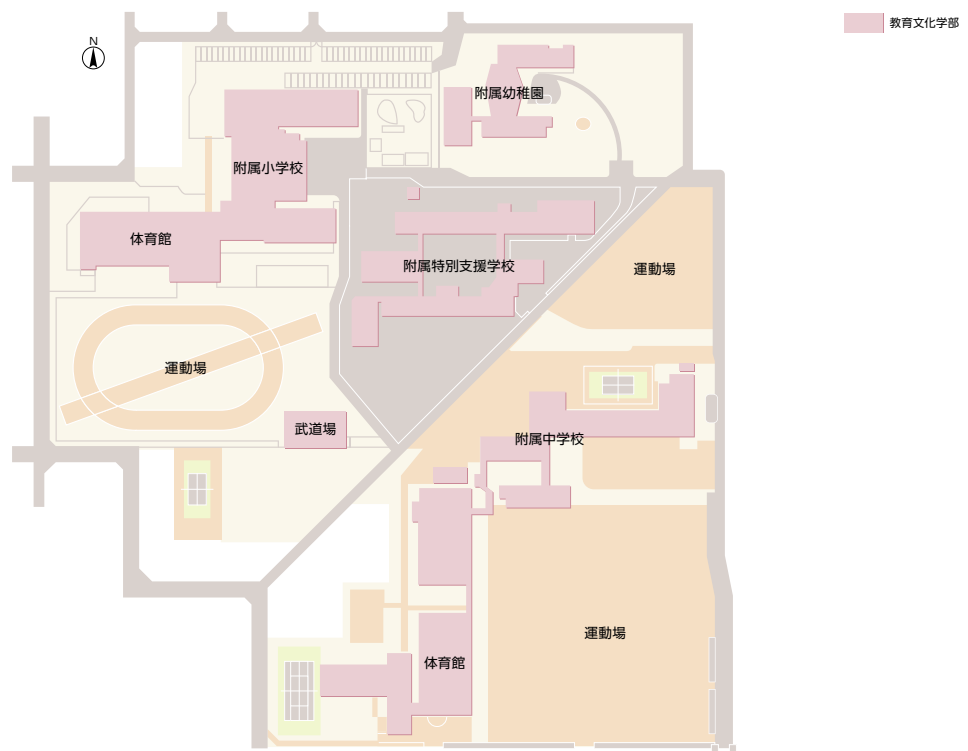
# 本道地区施設配置図

Hondo Campus Map



# 保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map



# アクセス

Access



## 〈秋田まで〉

令和5年4月現在

東京から	羽田空港—秋田空港(約1時間5分) 秋田新幹線「こまち」 東京駅—秋田駅(約3時間50分)
名古屋から	中部国際空港—秋田空港(約1時間20分)
大阪から	大阪国際(伊丹)空港—秋田空港(約1時間30分)
札幌から	新千歳空港—秋田空港(約1時間)
秋田空港～ 秋田駅間 リムジンバス	秋田空港—秋田駅西口(約40分)

## 〈秋田駅から秋田大学まで〉

令和5年4月現在

行き先	バス路線(秋田中央交通)	秋田駅前 バスのりば	下車バス停(所要時間)
手形 地区	手形山大学病院線	西口⑫番	秋田大学前 (約5～30分)
	秋田温泉線 ※平日のみ	西口⑫番	
	榎山大回り線 ※平日のみ	西口⑨番	
●秋田駅東口より徒歩約15分			
本道 地区	太平線	西口⑪番	大学病院前 (約10～20分)
	赤沼線		
	松崎団地線	西口⑫番	
	手形山大学病院線		
保戸野 地区	赤沼線	東口②番	原の町 (約5～25分)
	泉八橋環状線 ※平日のみ (八橋回り)	西口②番	
	神田旭野線	西口⑧番	
	添川線		
	泉八橋環状線 ※平日のみ (泉回り)		
榎山大回り線 ※平日のみ	西口⑨番		





秋田大学のロゴマークには次の3つの意味が表現として込められています。

- 1 マーク上部には、秋田大学の4つの学部を4株の稲のイメージで表現しています。
- 2 マーク下部のラインには、秋田大学が未来のステージへ飛躍するイメージ、本を開いたイメージ、そして外に開かれたイメージを重ね合わせたものです。さらに、マーク上部が表現するイメージをしっかりと受け止める土台となっています。
- 3 以上の2つの組み合わせにより、秋田大学が世界の課題を解決するとともに地域の発展に寄与すること、同時に秋田大学の上昇志向をイメージしています。

## 秋田大学 概要 令和5年度

[編集発行]

秋田大学 広報課

秋田市手形学園町1番1号 〒010-8502  
TEL018-889-3019 FAX018-889-3242  
E-mail kouhou@jimu.akita-u.ac.jp  
<https://www.akita-u.ac.jp>